

Jazz Today®

Monthly Free Magazine

2007.01 **No.33**



Austin Peralta
Sam Yahel Trio
oshima teruyuki
Roberta Gambarini & Hank Jones
Minako Yoshida



<http://www.jazztoday.jp/>

Austin Peralta

オースティン・ペラルタ

「僕が音楽だ！」と言いつける
恐るべき十代の2枚め。



text by JazzToday 編集部



衝撃のメジャー・デビュー盤『処女航海』を吹き込んだときは弱冠14歳。その前作の発売から1年を待たずして世に問う新作、『マントラ』の録音時点(2006年10月10日@NY)でも16歳になる直前だったというオースティン・ペラルタ。あのハンカチ王子や浅田真央選手よりも若いわがジャズ界のピアノ王子はそう、いまだ「恐るべき十代」なんである。しかも話題作『マントラ』では早くも“私の考えるジャズ”を全編展開し、2枚目の名刺としては堂々の風格ぶり。トリオ形式で天才少年の肖像を浮き彫りにしたデビュー作に対し、今度は各世代のベテラン&中堅ミュージシャンを配置して「作曲能力」の可能性まで存分に開示している…。

「最初のアルバムは、プールでいえば飛び込み台のような役目をしてくれたと思うんだ。僕の存在を紹介すると同時に、ハンコックやタ

イナーの音楽をこう解釈して、こういう可能性を示せるピアニストであるというふうだね。加えてサクソやヴィブラフォンも入れた今度の2作目の場合は、自分ひとりが目立つアルバムというよりも、参加ミュージシャン全員の“集合体としての音楽”になっている。“まとまりの音楽”とでも言えばいいかな、皆が協力し合って集中して創り上げることが出来た点がとても嬉しいんだ」

最近では地元ロサンゼルスでのライブでもサクソとヴィブラフォンをフィーチャーしているというオースティン。前作録音以降、優に30曲を超えるオリジナル作品を書き下ろしたそうだが、やはりクインテット想定曲が多く、『マントラ』はそんな彼の志向性が散りばめられている一枚。2枚目の構想の足跡を聞いてみよう。

「2nd制作の話をももらったとき、もっと一貫性



マントラ/オースティン・ペラルタ

1年という歳月は、少年にどんな変化を与えたのか。その瞳が見つめる未来の片鱗がここに。

- 01. マントラ ★
- 02. ブラック・ナルキッソス
- 03. グッドバイ・ポーク・ハット
- 04. アストラル・タイズ ★
- 05. パタフライ
- 06. アブレイズ ★
- 07. オール・ザ・シングス・ユー・アー
- 08. アフロ・ブルー
- 09. D. レッドマン ★

★: オリジナル曲

■パーソネル
オースティン・ペラルタ (piano & kalimba)
バスター・ウィリアムス (bass)
ロナルド・ブルーナー Jr. (drums)
マーカス・ストリックランド (tenor & soprano sax)
スティーヴ・ネルソン (vib)

2006年10月10日、NY録音

VRCL-18836 (Hybrid / CD & Super Audio CD)
¥2,835 (税込)
2006/12/20 RELEASE

のある物語が流れるような、テーマを持ったようなアルバムを作りたいという気持ちがまず頭に浮かんだ。それで収録されている4曲のオリジナルを2日間書き下ろしたんだけど、僕としては“組曲”になっているように思うんだ。その間に僕の好きなスタンダードの色合いを挟んだという構成なんだけど、なんとなく一貫したテーマとして“瞑想”というものが全体に流れているような気もして。それを1曲目の〈マントラ〉と最後の〈D. レッドマン〉がブックエンドのように挟んでいるというね、そんな感じのアルバムに仕上がったと思います」

ある種の東洋趣味は父親、あるいは母親の影響なのか? と質したら「いや、知人で仏教徒のチェロ奏者がいて、彼からプレゼントされた本などからの影響」だとか。デビューの縁で日本と行き来する以前から「禅や瞑想には興味があって、実際に自分でも瞑想はくり返している」16歳。事実、1曲目の〈マントラ〉は何度もくり返されるフレーズが印象的な作品だが、デビュー時の取材でも若い世代なりのコルトレーン観、自分の言葉で巨星へのリスペクトを語ってくれたオースティンゆえ、あの偉大な名前が脳裡をよぎるが…。

「改めてそう指摘されると正直なところ、自分でも驚くというか…自分がこのアルバムでやりたかったことと、コルトレーンが生涯をかけてやろうとしたことは凄く共通しているなあ、と思いますね。コルトレーンも常に瞑想を心がけていたそうだし、自分の精神のチャンネルを開放して、喜怒哀楽の総てを音楽を通して表現しようとした人だと思うから。尊敬しつつ、僕もそういうところを目指したいです」

かといって〈アフロ・ブルー〉を「意識して入れたわけでもなく」あくまでも自然の選曲らしいが、眼を引くのはアルバムの最後を飾るオリジナル作品のタイトルにもなっているデューイ・レッドマンの“存在”だ。

「意外な名前ですか、そうかなあ(笑)。でも、デューイ・レッドマンという人はミンガスやコルトレーンに通じる、“以前に誰もやったことのないことをやった革命者”の一人だと僕は思うんですね。フリージャズの文脈で考えても彼みたいな音楽をやったという人はいなかったと思うし、逆に彼の受けている評価というのは過小評価だと僕は思っています。もっと本当は評価されてもいいのに亡くなられて、凄く残念なんですけど…本当に素晴らしいミュージシャンだと思っているので、自分なりのトリビュートを捧げたいと考えた。彼の音楽から自分が受けた印象であったり、もらった情熱というものを、瞑想しながら曲に込めたいと思ってソロで演奏した曲なんですけど。ある意味このアルバムは、全部を彼に捧げるという気持ちもどこかにあるんですね」

そんな16歳のオースティンであるが「早熟」という賛辞は安易には受け入れない。年齢の問題でない、と。

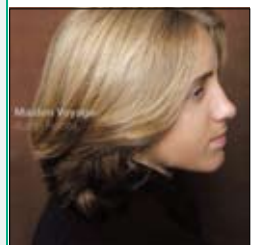
「周りの友人たちと比べると確かにそういう面はあるのかもしれないけれども…はっきり言えるのは自分にとって音楽というものは真剣に、“命を賭すもの”というくらい大切なものなんです。I am Music! と、そう言い切れるくらいね。自分にとって音楽よりも大切なものというのは全然ないわけ。音楽をやっていると日常のこととはまるで違う、異質な次元に自分の魂が飛んでいくような気持ちにもなりますし。空間とか宇宙というものが凄く違うかたちで繋がっているというような、本当に不思議な体験ができるから…だからこそ、自分が毎日感じることだとか思うことを真剣に、音楽を通じて投影していきたいと思うんですよ。早熟云々ではなくて、何よりもそうすることが僕にとっては凄く自然ですから」

最後に〈グッドバイ・ポーク・ハット〉にちなんで、彼のミンガス観を訪ねてみたら、こう応えてくれた。

「うっわあ…ミンガスを語れて!! マイツタなあ(笑)。…ミンガスは本当に信じられないような存在で…自分が初めてやるということを恐れずに、皆の前に提示していった人だと思いますし。やはり、誰もやったことがないということをやった存在ですよ。凄くエネルギーを感じますし、本当にブルージーだし、演奏からも彼の曲からも『俺がミンガスだあ!!』『ゴチャゴチャ下らねえことをヌカすんじゃねえ!!』みたいな、凄く独特の匂いや強さを感じるなあ」

若いオースティン・ペラルタがこれから先、前人未踏の地平を切り開いてゆく可能性は大。この『マントラ』からも潜在能力の濃密さが漂うが、もし彼が、ミンガス級の匂いと強さを身につけた暁にはどうなるか!?

処女航海 / オースティン・ペラルタ



驚異の新人ピアニストは15歳の美少年! その堂々たる立ち振る舞いと才気立っ演奏はまさしくジャズ界が待ち望んだ「王子様」!!

VRCL-18831 (CD & Super Audio CD / Hybrid) ¥2,835(税込)
高音質 LP も同時発売!
VRJL 7031 (LP) ¥3,360 (tax in)
2006/2/22 RELEASE

- 01. パッション・ダンス / 02. いそぎ
- 03. 処女航海 / 04. グリーン・ドルフィン・ストリート
- 05. スペイン / 06. N.Q.E. ※ / 07. いつか王子様か
- 08. パラキータ ※ / 09. ナイマ

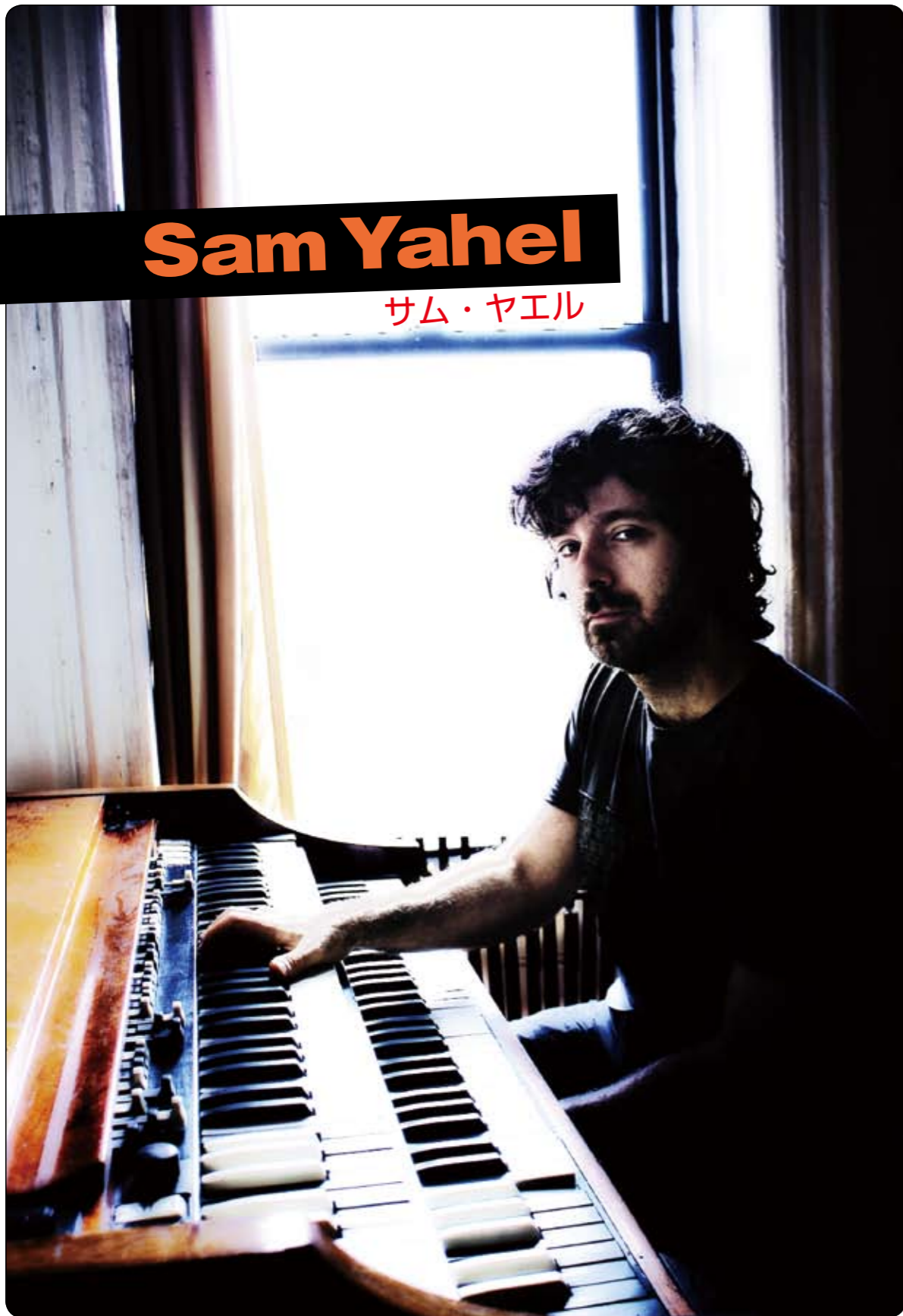
※オリジナル

■パーソナル
オースティン・ペラルタ (P)
ロン・カーター (Ba)
ビルリー・キルソン (Dr)

2005年9月27日、NY録音

Sam Yahel

サム・ヤエル



「僕はいつもプロセスが逆なんだ。」

interview by JJazz.Net



ノラ・ジョーンズやマデリン・ペルーのバックでの印象的なプレイから、ジョシュア・レッドマン・エラスティック・バンドでエキサイティングなサウンドを作り出す、現在NO.1オルガン・プレイヤー、サム・ヤエル。ジョシュア・レッドマン(Ts)、ブライアン・ブレイド(Ds)との最強オルガントリオによる新作『Truth and Beauty』をリリースした彼のオリジナルなオルガンサウンドの秘密は？



— やはり、もともとはピアノから始めたんですか？

Sam Yahel(以下Sam): うん、そう。ピアノを6才から始めたんだ。でも子供の頃は怠け者だったから全然練習しなかった。レッスンに行くにも教本も持っていかなくて、よく先生に怒られたよ。それで12才の頃について先生がとても厳しくて、そこで一度ピアノをやめてしまったんだ。それから17才の時にジャズに出会ってまたピアノを弾き始めたんだ。そしてNYのニュースクールに入ってからオルガンを弾き始めて、毎日セッションの日々。だから僕は大学を出るまで正式なクラシックのピアノのレッスンを受けていないんだ。24才でクラシック・ピアノを学び始めたんだ。もうジャズはかなり演奏出来たし、NYで仕事もしてたけど、子供の頃に途中でやめてしまったことがずっと気になっていたし、何か足りない気がしてたんだ。でも、とてもいい先生が見つかって、6、7年ほどレッスンをうけている。子供の頃とは反対に今では練習の虫だよ。凄くクリエイティブなレッスンなんだ。

— 面白いですね。ほとんどのプレイヤーはクラシックをやってからジャズというのが普通ですよ。

Sam: そうだね。僕はちょっと、人と違うんだ。一度、ビル・フリゼールに「子供のときにやっておけば、今やらなくて済んだかもね」と言ったら、「いや、子供の頃にやらなかったから君のプレイはスペシャルなんだ」と言われたよ。

— オルガンとの出会いはいつ頃だったんですか？

Sam: ニュースクールの2年のときだね。友だちから「今日のギグで使うオルガンを借りに行くんだけど一緒に来てくれないか？」って言われて行ってみると、オルガンがセッティングされていたんだ。それで弾いてみると、びっくりしたよ。まだ、その時のオルガンのサウンドははっきり覚えてるよ。暖かくて、美しく、スピリチュアルで。もうその時に僕はオルガンをプレイするんだって決めたよ。それで数日後、友だちからコルダのCX-7というオルガンを手に入れたんだ。それからだよ、ジミー・スミスやラリー・ヤングなどのオルガン・プレイヤーを聴き出したのは。オルガンを手にするまで全く、彼らの演奏は聴いた事はなかったんだ。いつも僕はプロセスが人と「逆」なんだ。

— 今回のアルバム『Truth and Beauty』はジョシュア・レッドマン、ブライアン・ブレイドとのトリオですが、あなたの参加している様々なグループ、たとえば同じトリオ編成のビル・フリゼールのグループと比べて何が違いますか？

Sam: 二人とも素晴らしいミュージシャンで、とても学ぶことが多いよ。そうだね、違いはまず、音楽性の違いだね。たとえば、ビルはカントリーの影響があるけど、ジョシュアは無い。ジョシュアはファンクの影響があ

るけど、ビルには無いよね。あとはジョシュアはとても気さくで演奏中もオーディエンスやメンバーとコミュニケーションをとって、それをプレイに反映させる。ビルはちょっとシャイでそれが音楽にも表われている。内省的で少し難解なところもあるけど、音楽の中に入り込むと凄く広い世界があるという感じだね。でも、それも一面的なことでも二人ともいろいろな面があるよ。僕のそれぞれのグループでのプレイは、ジョシュアとのトリオではベース・プレイヤーの役割も大きいね。ビルとのトリオでは彼もコード楽器だから、時にはベース的なことはせずにもっと抽象的なプレイをしたりするよ。でも、2人とも凄くフレキシブルなプレイヤーだから、僕がやりたい事をとても尊重してくれていて、一緒に演奏出来て本当にラッキーだね。

— 日本には何度も来られてるそうですが、日本で好きな食べものはなんですか？

Sam: 日本にはもう10回くらいきてるから、いろいろと知ってるよ。最近好きなのはネギラーメン(笑)。実は昨日、青山で食べたんだ。ひとりでラーメン屋に入って、でも、メニューは漢字ばかりだからネギラーメンを注文したんだ。僕はカタカナは読めるんだ。ネギラーメンはとても美味しかったよ。あと、とんこつラーメンも大好きだよ。でも、東京のとんこつラーメンはB+かな(笑)。やっぱり博多で食べるのが美味しいね(笑)。あと、もんじゃは食べたけどあれはちょっと苦手だね(笑)。

トゥルース・アンド・ビューティ サム・ヤエル・トリオ

3つの透明なジャズの文体、ジョシュア・レッドマン、ブライアン・ブレイドとサム・ヤエル、名前を変えて持続するX世代のオルガントリオ。

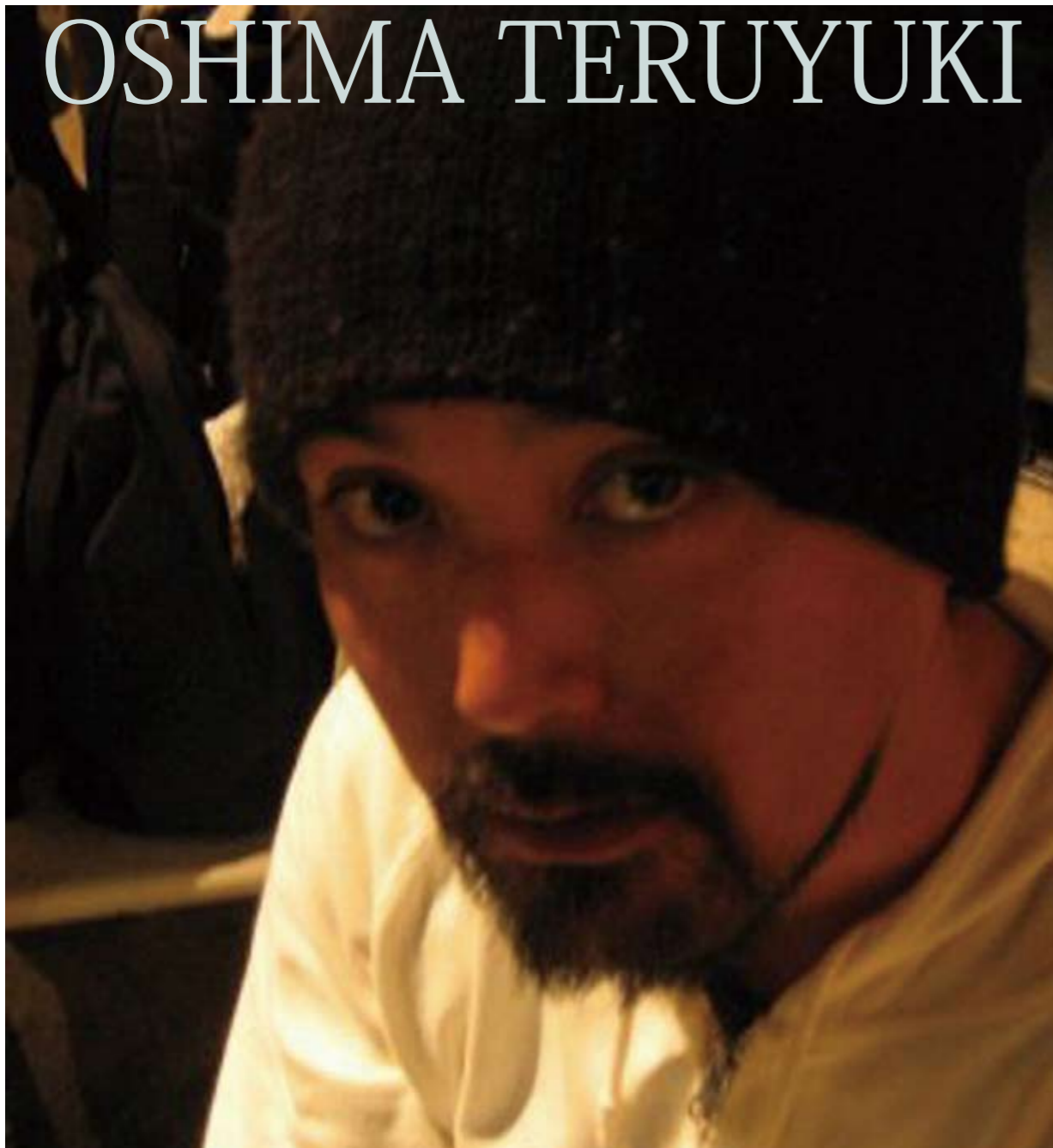


01. Truth and Beauty S.Yahel
02. Man O'War S.Yahel
03. Check Up Ornette Coleman
04. Bend the Leaves S.Yahel
05. Saba S.Yahel
06. Night Game Paul Simon
07. Child Watching S.Yahel
08. A Paz Gil / Donato
09. Festinhas S.Yahel

■ パーソネル
Sam Yahel (Hammond B3)
Joshua Redman (sax)
Brian Blade (drums)

ewe EWCD-2016 ¥2,300 (税込)
2006/12/27 RELEASE

OSHIMA TERUYUKI



4次元の音の騙し絵

interview by 花井雅保 (JJazz.Net)

sim、feepなどで緻密かつ自由な音楽を作り続けている大島輝之、初のソロアルバム『into the black』をリリース。15名にもおよぶ豪華な参加メンバーによって繰り出されるサウンドは聴き進むうちに心地の良い目眩に襲われるよう。意志を持った4次元の騙し絵のような作品。



— 今回、初のソロアルバムということですが、どういう経緯で「ソロアルバム」ということに？

大島輝之(以下:大島): 僕が付き合いのある人たちと大人数でアルバムを作りたいなって、頭の中では考えてたんですけど、いろいろな面を考えるとちょっと難しいかなと思ってたんですよ。それでちょうどeweの方とお話して、「今、こういう事考えているんですけど」と言ったら出させて頂けるということになったんです。今までのsimなどはメンツも曲も決まっているものが、そのままアルバムとして出たんですけど、今回はゼロの状況から曲作りが出来たっていうのがすごく楽しかったですね。

— では先にメンバーを想定しないで曲を作り始めたって感じですか？

大島: いや、一人で考えている時にだいたいのメンバーは考えていて曲の雰囲気というのでも考えていたんですけど、まあ、(そのメンバーを集めるのは)おそらく無理だろうなと思ってたんですが、結果、最初考えていたメンバーとほぼ近いものも数曲あります。

— simと今回のソロプロジェクトの違いは？

大島: simはあるコンセプトに忠実に基づいてメンバーにやってもらうって感じです。まあ、どっちもデモを作ってメンバーに聴いてもらってやってもらう感じなんですけど、今回は各パートの譜面を全部書いてメンバーに渡して、その通りにやってもらうって感じが多かったんです。simは譜面まではきっちりとは作らないんですよ。その辺が大きな違いですね。

— そうですね、feepからsim、そして今回のソロとどどんかちりとしてきてますよね。

大島: 独裁感が増えてきて(笑)。やっぱり、インプロヴァイズも凄くいいと思う反面、そのユルさというかんまり良くないなって面も結構知っているので。最近のインプロヴァイズって僕の中ではあんまり面白くないと思えないものが多くて。そうじゃないところで曲を作って、あるコンセプトに忠実に作ったものを再現してもらおうというほうが僕の中では面白いですね。

— 曲はどのように作るんですか？

大島: 曲はですね、Acidというソフトがありまして、それで切り貼りです。ドラムのパターンから作って、それにベースを重ねて。今回ギターシンセというのを買ったんですけど、ピアノの音とかウッドベースの音とかサックスの音とかもギターを弾いてデモテープ作りしました。simも、今回もそうですが全てコンピュータ上で作ってます。一回コンピュータで作ったものを生演奏で再現してもらってところが好きなんです。コンピュータだと当然演奏も完璧なんですけど、それを生でやってもらって多少の揺らぎとか、その人なりの独自のアドリブとかが入ってくれたほうが違う要素も入りますよね。そういうのが好きですね。

— 今回の『Into The Black』は、前回のsimのアルバムもそうですが歌のものが結構入ってますよね。

大島: 自分で歌えないんで。いや、別に歌えるんですけど(笑)歌えないんですよ。その辺、憧れみたいのがあって人に歌ってもらうのが好きなんです。simと佳村萌さんのもそうだし、今回もfuminosukeさんに歌ってもらってるんですけど。

— あの、もともとプリンス好きって聞いたんですけど。なんかこのアルバム聴くとわかる気がしますね。

大島: あっ、ホントですか？ 誰かにも言われました。へえ、それは嬉しいですね。作ってる時はプリンスなんて全く思ってたんですけど。今回のホーンセクションとか大人数で自分でアレンジしてとか、昔から憧れてて。確かにプリンスとかJBとか大好きだったんで。

— あと、エッシャーもお好きなんですよ。

大島: この前、親に行っただですよ。面白いんですよ、あの人ね。やっぱり騙し絵とかってすごい驚くじゃないですか。発見した時って「えっ、あ、そうか!」みたいな(笑)。そういうの好きですね。でもやっぱり、まだ、そこまでは行ってないですね。僕の中では。そこまで近づきたいと思ってますけど。



summit2007

summit 2007 vol.1

1/9(火) 渋谷公園通りクラシックス
19:00open 19:30start
前売り 2000円, 当日 2500円
前売り予約は日時、お名前、人数を明記の上
[summit2007@hotmail.co.jp] まで!
渋谷公園通りクラシックス
<http://www.radio-zipangu.com/koendori/>

- Circuit Unconnection
(大島輝之 guitar 山田民族 guitar 福田亮 bass 植村昌弘 drums)
- 坪口昌泰 × NUMB
坪口昌泰: Ac.Piano, Electronics
NUMB: Effect, Electronics
- OPTRUM
(伊東篤宏 optron 進揚一郎 drums)



into the black / 大島輝之 EWBE-0020 ¥2,300(税込) 2006/12/6 RELEASE

日本のアンダーグラウンド・シーンにおけるポスト音響系の最重要バンド sim のギタリスト、大島輝之が初のソロ・アルバムをリリース!

01. plot0.333+	■パーソネル
02. rootrum	大島輝之: guitar, etc.
03. dark ages america 1956	大友良英: guitar, turntables / 守屋拓之: contrabass
04. the molecular ensemble 1	塚本真一: piano / 松本健一: flute, alto saxophone
05. the molecular ensemble 2	藤原大輔: tenor saxophone
06. impressionistic soundscapes	後関好宏: baritone saxophone, alto saxophone
07. into the black	吉田隆一: flute / 大蔵雅彦: bass clarinet
08. one day	ミロク: synthesizer / 植村昌弘: drums
09. turning off the switch of gravity things to come	イトケン: drums / 芳垣安洋: drums
10. dark ages america	フミノスケ [fuminosuke]: vocal
	庄司広光 [shoji hiromits]: ride cymbal, edit



さすがはタジマ画伯、最高のプレゼント。いつもアリガトウねっ、年間 MVP をあげちゃっ!

タジマ画伯

連載 10

絵と文
タジマヤスタカ

どうぞですが、今回のクリスマス仕様表紙は!! 歴代最高の出来だと編集長は思います。



メリー・オール・ソウル
デューク・ピアソン

今年最後はベタにクリスマス物の3枚で。当時ブルーノートのプロデューサーを務めていたピアソン、自ら企画したんでしょうか? ピアノやプレゼントをよこらしと担いだこのジャケットもノリノリって感じですね。人気盤『プロフィール』や『テンダー・フィーリン』のような洒落た黒さのトリオ演奏とはちょっと違って、あくまでもクリスマス企画っぽいアレンジとか演奏って感じ。そんな中でもピアソ

ンのアドリブが堪能できるサンバ調の〈ジングル・ベル〉、快速〈サンタが街にやってくる〉あたりが楽しみどころでしょうか。

デューク・ピアソン(p,celeste)
ボブ・クラッシュ(b)
ミッキー・ローカー(ds)
アイアート・モレイラ(perc)

1969年



ザ・スピリット・オブ・クリスマス
レイ・チャールズ

コンボやトリオによるクリスマスアルバムも良いのですが、やはり楽しさと言う事ではボーカルでしょう。今回はちょっと変わったところでレイ・チャールズのクリスマス物を。バックにビッグバンドやレイレッツを従えて、いつものゴージャスなショウの雰囲気の中〈リトル・ドラマー・ボーイ〉、〈サンタが街にやってくる〉、〈赤鼻のトナカイ〉など次々とお馴染みのメロディーをソウルフルにフェイク

てゆきます。ハバード(キレ良し!)等ゲストプレイヤーたちが華を添えているのも楽しいところ。

レイ・チャールズ(vo,p)
フレディー・ハバード(tp,flg)
ルディ・ジョンソン(ts)
レイレッツ(vo)他

1985年



シックス・ストリングス・サンタ
ジョー・パス

6弦のサンタさんですね。ジャケットの帽子、頭に被ればいいのに…企画モノではありますが、妙に仕掛けたり気張ったりする事も無く、ちょいと気が利いたサラッとしたアレンジにリラックスした演奏で〈レット・イット・スノウ!〉から始まる全11曲、ゆるりと楽しませてくれます。あったかいなあ。ソロでやってる〈ホワイトクリスマス〉とか沁みますね。よっ、パーチュエーソ! 暖炉の横とかで聴きたい感じ

〜。いや暖炉なんて無いですけどね。それでは、楽しいクリスマスを、そして良いお年を! 本年はどうもありがとうございました。来年もよろしく〜。

ジョー・パス(g)
ジョン・ピサノ(rhythm,g)
ジム・ハガート(b)
コリン・ベイリー(ds)

1992年

冬に聴く、音楽家たちの言葉

text by hanao (JJazz.Net) vol.6

いよいよ冬も本番です。みなさん如何おすごしですか?

冬の苦手な友人たちは、首を縮めて歩いています。私はわりに冬が好きなので、びりりと寒いと嬉しいくらいです。多少の風では寒くないくらいにしっかりと着込んで、顔だけびりりと冷たいと、東京の空気さえ清潔な気がしてきます。それでもやっぱり寒さは染み込んでくるもので、どうしてもすこし、急ぎ足になってしまうものも季節です。

だからこそ、あたたかい場所ではゆっくりと過ごしたい。大切な人や懐かしい人と会う機会も多いので、いつもより丁寧に会話を楽しみたいと思います。たとえば同じ日本語を母語としていても、それぞれの性格や取り巻く環境は、いつのまにか「その人」らしい言葉を形作っています。これは当たり前ながら不思議な話で、いろいろなアーティストのインタビューを聴くたびに私が思うことでもあります。

クリスマスにかけて放送されている、クリスマスソングをずらっと並べたJJazz.Netのスペシャル番組「SNOWY X' MAS」が終わると、続いて年末年始のスペシャルなインタビュー番組が始まります。ピアニストの板橋文夫さんも登場するこの番組もまた、人と言葉、言葉と音楽、音楽と人、という関係性の面白さを味わえるもの。

特に、文字ではなく音で楽しめるインタビュー番組というのは、声そのものや言葉の抑揚、話し方のくせなどが直に判るので、勝手にその人をよく知っている気になってしまいそうです。誰かが話すのをいつもこんなにきちんと聴いているかな、というくらい、私はインタビュー番組をきちんと聴くほうです。CDやライブで音楽を聴くことはできても、意外と音楽家本人が語るのを聴ける機会というのが無いからかもしれません。

もちろん、音楽家の音楽を聴くのは大好きです。それでも、その音を好きになって、その人に興味を持つと、好奇心はぐんぐんと芽生えてくるわけです。この人は、どんな声をしているんだろう。どんな言葉を選んだらう。どういう風に話すんだろう。そして、どんな思いで音を生んでいるんだろう。そのきっかけは。そのいきさつは。そして今は。

音を知ったのちにインタビュー番組を聴く方もいるでしょう、インタビュー番組で初めてその音楽家を知る方もいるでしょう。前者の方がきつと多いこととは思いますが、私はそんな順番、どちらでも構わないと思います。JJazz.Netのインタビュー番組に登場する音楽家の方々は、音も言葉も、それぞれに魅力的だからです。

これからも JJazz.Net は、素晴らしい音楽やインタビューを発信していきます。今年一年お世話になった方々に感謝しつつ、びりりと寒い冬の空気と共に、改めて JJazz.Net-ism ともいえるキーフレーズ「大切なものに出会うために」を胸に。音楽家たちの真摯な言葉であたたまりながら。

それではみなさん、よいクリスマスと、よいお年を。

internet radio station
JJazz.Net
Japan Jazz Network

月額1,050円の会員サービスでは約4ヶ月分のアーカイブ、常時約500曲が聴き放題

www.jjazz.net

吉田美奈子の「音楽の言葉」

聞き書き連載

聞き手: 末次「JT」安里 (本誌編集長)

6年ぶりに吉田美奈子さんを取材した。聞き書きによるこの長期連載は可能な限り継続してゆく所存だ。裏テーマは一応「この国でアーティストを貫くということ」ではあるけれども、毎回、時流に捉われない徒然の問いをぶつける方法で「吉田美奈子の世界」を活写できればと思っている。さて、第一回は…。

Vol.1

大竹伸朗さんの魅力

JT: いきなり時流ネタですが(笑)、この冬は「大竹伸朗 旋風」が吹き荒れました。美奈子: 凄いやねえ! 今、「大回顧展」(大竹伸朗 全景 1955-2006)展@東京現代美術館: ~12月24日)をやっているから、余計にそうなんでしょうけど。大竹さん、もう素晴らしいですよ!

JT: 美奈子さんは自身のHPでも「私にとって特別な存在」と賞辞を寄せていますが、出遭いはいつ頃? 美奈子: 80年代、彼が(ギャラリー)ワタリで個展を始めた頃です。今回は当時の、私の所蔵の「ニューフロリダ、ナイロビ」という作品も3階に掛かっているんですが、1階のフロアを入れてすぐ左側の部屋が凄く大きな連の「網膜」シリーズで…もお、美しくってねえ、震えますよ、本当に!

JT: 「私は…その部屋で死にたい!」とまで書かれています(笑)。大竹さんのどこに惹かれますか? 美奈子: もの凄く頭のいい人だと思うんですけど…でも、それを越えて本来の、自分のありのままのものをちゃんと信じている。しかも自己チュー(シン)ではなくて、周りをも凄く注意深く観ているがゆえの自分を信じている「眼力」みたいな美意識というかな。ちゃんと自分で冷静に判断して信じている人なんですよ。そこが揺るぎないし。それと彼は会うとね、話さないで、もの凄く「権威」に見えるんですよ(笑)。それってヘンな言い方ですけど(笑)。

JT: いや、言いたいことは分かります。大竹さんの談話を読めば、凄く分かります。美奈子: 会って「どう、元気?」とか言うと、(口真似で)「ああ、もお美奈子さんねえ、モダンアートは金にん

ないっすヨォ〜」とか「相変わらずピンボース」とかそういう感じ。もうガテン系のノリなんです(笑)。この間のレセプションのときなんかロシアかな? 軍隊のアレ…なんていうんですか!? カーキのジャケットみたいなのを着てましたけれども。要するにボロボロとした帽子を被って。たぶんそれは自分で敢えて選んで着ているんだなと。まあ、軍隊の色なんですけど、色合いがきれいで。彼はペンキが朽ちているものの表面とか廃材なんかかもの凄く好きなんですけれども、ちゃんとその色合いなんです。背中にプリントしてある文字も。JT: それも含めて、大竹伸朗の世界なんですね。美奈子: うん。だから本当に隅々まで神経が行き届いてて、それがゆえに(ああ、大丈夫かナァ…)と思うようなデリケートな時期もあったんですよ。あれは池袋の西武美術館でやった当時(91年)かな、「大丈夫?」って言ったらニコッと笑ってね(笑)。ものを創っている同士って言ったら、彼に対して非常におがましいんですけども、そういうちょっとした「体温」とか、ちょっとした「視線」とか「仕草」とか…そういうものが解かるというか。ああいうアーティストの方はとにかく毎日の創造が仕事ですから、その折々の作品にその時のデリカシーがダイレクトに表現されてもいるんですよ。で、それがやっぱり切ないし、美しい、感動する。そこですかね、一番好きな部分は。JT: 今仰った「自分が本来持っているもの」への姿勢であるとか、「隅々まで神経が行き届いている」という繊細さは、まさに美奈子さんが美奈子さん御自身を語っているように聞こえますが…。美奈子: いやあ、それは…他者が決めていることで

(笑)。ええ。私自身はあんまり、自分のことを分析することとはできないですね。好き嫌いのはできませんけれども…ピーマンが嫌いとか、うふふふ。でも、三つ葉は大好きとか、なんかよく分からない話はあるんですけども、自分は「こういうタイプの人間だ!」みたいなことはやはりちょっと言えないですよ(笑)。

—この項、続く—

Spangles (スパングル) 吉田美奈子



「歓びの光」をテーマに書き下ろされた十篇。渡辺香津美ゲスト参加!

IOCD-20137 ¥3,150(税込)
SACDとのハイブリッド盤
(SACDプレーヤー、CDプレーヤーの両れでも楽しめます)
2006/2/22 RELEASE

- 01. FUN ! / 02. HOOP
- 03. RIM / 04. 8月の永遠
- 05. MIRROR TOWN
- 06. MOON DROPS / 07. BEYOND
- 08. NETKING / 09. CASCADE / 10. FRAME

〈プロデュース/コ・プロデュース〉 吉田美奈子 / 倉田信雄

■パーソナル
吉田美奈子 (Vo.& Backing Vo.)
岡沢章 (B.) / 土方隆行 (G.) / 倉田信雄 (A., E.Piano, Syn.)
河合代介 (Organ, Mini Moog) / 山越勉 (Dr.)
木本靖夫 (Loop, Computer Programming)
〈ゲスト・ミュージシャン〉
渡辺香津美 (G.) / 藤田恭子 (Background vocal)



UDIN / GAIA CUATRO

- 01. GAIA
- 02. COMO LO VEO
- 03. LA CHUSMA
- 04. DOS LUNAS
- 05. HABANERA
- 06. WALTZ FOR CAMEL
- 07. CONTRA
- 08. HUAYHONGO
- 09. DESPUES

【パースネル】
ヘラルド・ディ・ヒュスト (piano)
金子飛鳥 (violin, voice)
カルロス・エルテロ・ブスキニ (electric & acoustic bass)
ヤヒトモヒロ (percussion)

KaiYa Records KYCJ-10002

購入は、KaiYa Records、
<http://www.16.plala.or.jp/gaia-cuatro/gaia-cd.htm>

20世紀を蓄えた、「いま」のひびき。

text by 小沼純一



連載 vol.11

聴き始めてすぐ、肌の表面から筋肉へ、内蔵へと音が、振動が、音がたつたて生まれる律動が、全身に、届く。心身の部分部分がそれぞれに自由に、そしてすべてが一体となり、躍動する。

アルバム冒頭、バンド名でもある《GAIA》。

ヤヒトモヒロがいまも熱心に取り組んでいるのがこれ、という。本人からではない。また聞きだが、そうかもしれない、いや、そうなんだろうと納得。日本人とアルゼンチン人が2人ずつ、4人。パリで出会った4人が、04年に「GAIA CUATRO」を結成し、『UDIN』は2枚目のアルバムだ。意気投合した一回だけのセッションではなく、年に一度は日本でツアーをおこなう、恒常的なバンド。命名は、大地、地球、生命のイメージから。

聴き手を引っ張ってゆく。それでいて、一本調子ではない。細部がつねに変化する。ヴァイオリンが奏でる線の背後で、ピアノが、ベースが、パーカッションがリズムを変え、打ちこまれるアクセントが、音=色(トーンカラー)が、いたずらにカラフルなのではなく、微妙なグラデーションをつくる。木を、皮を、金属を叩き、愛撫するひとの手、木のスティック、さまざまなマレット。ベースの絃のひびきは楽器の胴体をめぐり、

ピアノからは木の香りがしっかりと漂ってくる。

メンバー全員が40代。受けてきた教育や実践してきた音楽は各人多様、それらが熟成して混じり合っている。異なった音楽のヴォキャブラリーが、ときどきに新しいクレオールをつくりだす。クラシックがありジャズがありロックがある。子どもの頃から耳にしたリズムがあれば日本やアジアのペンタトニックがあり、エクソティスムとしておもしろがる。20世紀が蓄えた前衛的な、実験的な音楽の奏法が、ひびきがある。え、と驚き、うん、とうなずき、ちょっと、と招き、うふ、と寄り添い、まったく、と突き放す。ぐく、と抱きしめる。ひとつの「曲」がひとつひとつの「あいだ」をつなぎ、また、予期できない反応を引き起こす。

ギリシャ神話では、カオス(混沌)からガイア(大地)、タルタロス(地底世界)、エロス(愛)が生まれ、ガイアはウラノス(天)、ポントス(海)など、多くのものを生むことになる。ここには多くの可能性と新たな混血がうねっている。未来に名をつけられるべき新たな音楽を孕む GAIA CUATRO に乾杯!



2拍か3拍か

Impression of Tristano

文&カット 平井庸一

(先月までの話——(Ablution)という曲を採譜するために音源を収集…)『Alan Broadbent & Putter Smith / Continuity』(81)と『Warne Marsh meets Gary Foster』(82)は当然どちらも廃盤だったのですが、運良く中古屋で見つけることができ、両アルバムに収録されているテイクを参考にコピーすることでやっと譜面を

作ることができました(余談ですが、ブロードベントはアルバム『Over the Fence』(94)でも同曲を演奏しています)。

トリスターノ作の《Baby》という曲(原曲はスタンダードの《My melancholy baby》)を譜面に起こす時には、また違った苦労がありました。この曲も《Ablution》同様、トリスターノ本人による演奏は発表されていません。レコードに収録されたのはリー・コニッツの『Spirits』(71)が最初です。このアルバムでは《Baby》は、同じくトリスターノ門下生のサル・モスカ(piano)とのデュエットで演奏されていますが、モスカのピアノは、厳格にリズムをキープするトリスターノと違い、フィーリングでテンポが伸び縮みするようなルバートのプレイのため、テーマ部分の譜割が非常に解りにくくなっています。

特に、頭のテーマリフが始まる前の休符が2拍なのか3拍なのかはつきりせず、ずいぶん悩みました。テーマの音使いを拾ってから譜割の検討を付けていくと、おそらく頭の休符は2拍だろうと思えたのですが、「でも、しかし

たら3拍かもしれない…」との疑念が頭をよぎり確信が持てませんでした(トリスターノ派の演奏はフレーズの拍をずらすようなアプローチが多いので)。

他に《Baby》が収録されているアルバムはないだろうかと探してみたところ、アンソニー・ブラクストン(Reeds)がトリスターノ系の曲ばかり演奏したアルバム『EIGHT(+3) TRISTANO COMPOSITIONS 1989』で吹き込んでいたので早速購入し、これでやっとテーマを採譜できると喜んでいました。しかしいざ聴いてみると、ブラクストンのバージョンもピアノとのデュエットで(コニッツとモスカの演奏をかなり意識している感じ)、肝心のテーマ部分もコニッツのバージョンを(譜割が曖昧な部分も)そのままコピーしたようなものだったため、残念ながらあまり参考になりませんでした。そんな訳で、《Baby》を譜面に起こすことはあきらめかけていましたが、その後意外なかたちで譜割が判明することになります。

ある日、とあるジャズの店で、トリスターノの“ハーフ・ノート”でのライブを収めたTV放送(64)のビデオを見せてもらっていました。ライブ部分の音のみはすでに『Lennie Tristano / Continuity』としてCD化されていますが、映像をみるのは初めてでした。ライブのシーンが終わり、司会者がしゃべりだしたのもう終わりかかっていると、そのバックで、なんといきなり《Baby》の演奏が始まったのです! アップテンポの演奏で、頭の休符はやっぱり2拍でした。

——しかし、そこまで苦労したにもかかわらず、結局バンドで《Baby》を演奏したのはたった一回きりでした。

LIVE スケジュール

- 12/22(金) 昼2:30~
新宿ピットイン ¥1,300
平井庸一(g)、都築猛(p)、増田ひろみ(As)、橋爪亮督(Ts)、海道雄高(B)、竹下宗男(Dr) 今年最後のライブです。
- イベント出演 12/18(金) 夜6:30~
高円寺ペンギンハウス ¥1,800
平井庸一(g)、都築猛(p)、海道雄高、蛸子健太郎(B)、竹下宗男(Dr)、橋爪亮督(Ts) / 予定)
- 他の出演グループは M.A.S.H.(大沼志朗 Dr、森順治 Sax、板倉克征 P)、GeGeGe Trio 他
- 毎週金曜日 夜7:30
六本木 FIRST STAGE (03-3405-1910)
¥2,000(ドリンク付)
ジャムセッション進行。



2006 6月某日

うっすらと空が白んでくる。朝、最も早起きなのはカラス。カラスは鳴き声で遠くの仲間と連絡をとっているんだよ。その鳴き声に起こされ、もそもそと寝袋からはい出す。昨日に引き続き今日も晴れ。目覚めの紅茶を湧かし、飲む。キャベツと生姜のみそ汁を作り、昨日の晩飯のとき、多めに炊いたご飯を食べる。いつもと同じ朝ご飯。ここは山形は鳥海山麓の吹浦という街の公園。天気がよいので珍しく鳥海山の頂を望むことができる。山間にはまだ雪が残ってとても奇麗。テントを撤収、今日は秋田を目指す。一昨日鶴岡のライブを終え、本当はもう少し進んでおきたかった。なぜなら今日、秋田で友人のドラマー大井澄東のライブがある。それを聞きに行きたかった。しかし、どうしてもこの鳥海温泉に入りたかったので、ここ吹浦を宿泊の地に選んだのだ。それだけでなくツアーの多い職業柄、そのうえチャリ旅が趣味の僕は温泉には目がない。中でも鳥海温泉は無名ながら大好きな温泉。鶴岡から吹浦までは40km弱。本気で漕げば半日足らずの距離だ。おかげで今日は100kmほど漕がなくては行けない。100km漕いで、演奏するのは無理だけど、演奏聞けるのは大丈夫だろう。

SOLO PIANO vol.3 紡がれた印象 中村真



EWCD-0112 ¥2,500 (tax in)
2006/7/5 Release

- 01. Spring can really hang you up the most
- 02. That sunday That summer
- 03. The comparison of a D major and the other
- 04. 風子 / 05. The first water / 06. Blue in green
- 07. くまさんのワルツ / 08. Improvisation - Erotic Blue
- 09. 夏の思い出
- 10. Improvisation - Bluespotted Mudhopper
- 11. Improvisation - Erotic Blue

【パースネル】中村真 (P)

その距離をぶらぶら、近づいてくる鳥海山を眺めながら、時には遠ざかる月山を振り返りながらのんびりと自転車を漕ぐ。はちどりのせわしない鳴き声が届き、また近づいてくる。はちどりは一体いつ呼吸をしているのだろうか。そのはちどりの鳴き声、ずーっと聞いていたら何となくセシル・テイラーのフリージャズの演奏に聞こえてた。なんだ可笑しい。

ささやかな、本当にささやかなことに対しても感動はある。路傍の小石の表情や、名もない雑草の花の美しさ。雑木林を駆け抜ける風の音。そういったものを、五感の全てを動員して感じながら、またそれらを線で繋ぐ事の出来る自転車の旅。僕はこの旅を続けることによって変化していき、自分の音楽に興味津々であった。

今までのプライベートでのチャリ旅、大阪から上京する際の旅や、晩秋の、風邪を引いたうえ膝を壊しながらも敢行した伊豆半島一周の旅や、新婚旅行の北海道チャリ旅、ヒグマのうじゃうじゃいる知床の山を登山し、ビバグした北海道の旅や、その他にもたくさんの旅を終えた後自分の演奏は、何かが変わっていた。旅により精神的にリフレッシュしたことが演奏に新鮮さをもたらすであろうこと、奇麗な風景を眺めながらの旅が僕の感性に磨きをかけるであろうこと、は容易に想像出来たが、どうやらそれだけではなさそうだった。しかし、それが何なのか、自分でも見当がつかずにいた。

旅を続け、演奏を続けていくに従って、少しずつそれが自分の中で理解されていく。つまるところ、旅から得たダイレクトな感動は、そのままダイレクトな表現へと繋がっているのだ。自分とピアノとの距離感がどンドン縮まってくるのを感じながら、ツアーは続いていった。



写真上から鳥海山、そして男鹿半島のテント場、日帯こんなのを食べるという一例、山形は嵯峨での演奏の様子です

■■ チャリンコ de ソロピアノツアー 2007のお知らせ ■■

前回に引き続き、今回は4月中旬に九州は鹿児島から大阪までのツアーを計画しています。つきまして、出演させていただけるライブスポットを募集しております。ライブハウスに限らず、ピアノがあってお客さんがいれば、出来る限り演奏したいと思っています。前回のツアーでも、旧家やお寺等、ふつうとは違った場所での演奏もたくさんありました。興味を持たれました方、又はご質問等ございましたら、makoppo081@aol.com 又はウェブサイト宛に連絡ください。お待ちしております。

中村真 <http://members.aol.com/makosimo/>

The live line!

1月の新宿ピットイン 【夜の部】

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000~(1DRINK付)



1月1日(月) 休み

■ NEW YEAR SESSION 2007 ■

開場 17:30 開演 18:00 ¥3,500
 1月2日(火) 山口真文 (Ts) 池田篤 (As) 辛島文雄 (P)
 古野光昭 (B) ジョージ大塚 (Ds)
 1月3日(水) 向井滋春 (Tb) 本多俊之 (As) 辛島文雄 (P)
 鈴木良雄 (B) 小山太郎 (Ds)
 1月4日(木) 林栄一 (As) 辛島文雄 (P) 荒巻茂生 (B)
 小山彰太 (Ds)

1月5日(金) 休み
 1月6日(土) 休み
 1月7日(日) 休み

1月8日(月) 本田珠也 ELVIN JONES TRIBUTE BAND

本田珠也 (Ds)
 井上博之 (As)
 和泉聡志 (G, effect)
 荒巻茂生 (e-B)



本田珠也 ELVIN JONES TRIBUTE BAND

1月9日(火) MINGA

早坂紗知 (Sax) 新澤健一郎 (P) 永田利樹 (B) 大儀元元 (Per)
 コスマス・カビツァ (Per) ゲストあり

1月10日(水) ヤヒロトモヒロ・タイロン橋本 DUO
 ヤヒロトモヒロ (Per) タイロン橋本 (Vo, G)

■ 藤井郷子 2DAYS ■

1月11日(木) 2-Duo day
 田村夏樹 (Tp) 藤井郷子 (P)
 CD "In Krakow, In November" リリース記念
 ¥3,000
 藤井郷子 (P) 一 外山明 (Ds)



藤井郷子

1月12日(金) Satoko Fujii Orchestra Tokyo
 藤井郷子 (P) 早坂紗知, 泉邦宏, 松本健一, 木村昌哉,
 吉田隆一 (Sax), 田村夏樹, 福本佳仁, 渡辺隆雄, 城谷雄策 (Tp)
 はぐれ雲 永松, 高橋保行, 古池寿浩 (Tb) 永田利樹 (B)
 堀越彰 (Ds)

1月13日(土) Ub-X

橋本一子 (P, Vo) 井野信義 (B) 藤本敦夫 (Ds)

1月14日(日) live FAR 8 / Inter-Lock

"デフ・アリット 来日セッション!!!!"
 デフ・アリット (バリ・ガムラン) 林栄一 (As) 外山明 (Ds)
 藤乃家舞 (B, G)
 《リトル・トーキョー》藤乃家舞、コーヘー x ハマ x U-1
 x よっしー (ガムラン)

1月15日(月) 渋谷毅オーケストラ

¥3,500

渋谷毅 (P) 峰厚介 (Ts) 松風敏一 (Sax, Fl) 林栄一 (As)
 津上研太 (Sax) 松本治 (Tb) 石渡明廣 (G) 上村勝正 (B)
 古澤良治郎 (Ds)

1月16日(火) 荒井皆子 GROUP

荒井皆子 (Voice) スガダイロー (P) 加藤真一 (B) 岡部洋一 (Per)

1月17日(水) 白庭潤 JAZZ ROOTS 2trombones version

白庭潤 (Sax) 北原雅彦, 佐野聡 (Tb) 佐藤雄大 (Key)
 永井充男 (G) 杉本智和 (B) 福森康 (Ds) 小澤敏也 (Per)
 ゲスト: 入道 (Vo, Harp)

1月18日(木) 川下直広 TRIO

川下直広 (Ts)
 不破大輔 (B)
 岡村太 (Ds)



川下直広 TRIO

1月19日(金) Tipico CABEZA ¥4,000

佐藤允彦 (P) 加藤真一 (B) 岡部洋一 (Per)

1月20日(土) ジョージ大塚 NIGHT

ジョージ大塚 (Ds) 深沢真奈美 (P) 高山夏樹 (B)

1月21日(日) Assif Tsahar & Tatsuya Nakatani DUO

アシーフ・ツアッハー (Ts, B-cl) タツヤ・ナカタニ (Per)
 ゲスト: 大友良英 (G) 八木美知依 (琴) 大蔵雅彦 (As, Bcl, Tubes)

1月22日(月) TOKU・HISA 5

— Instrumental Only Project —

TOKU (Flh, Tp)

鈴木央紹 (Sax)
 柴田敬一 (P)
 井上 陽介 (B)
 大坂昌彦 (Ds)



TOKU

1月23日(火) 酒井俊 LIVE!

酒井俊 (Vo) 林栄一 (As) 桜井芳樹 (G) 坂本弘道 (Cello)
 関島岳郎 (Tuba) 水谷浩章 (B) 岡部洋一 (Per)

1月24日(水) 今村祐司 GROUP

SHINJUKU PIT INN

〒 160-0022
 2-12-4 ACCORD BLDG. B1
 Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN
 ☎ 03-3354-2024
<http://www.pit-inn.com>

今村祐司 (Per) 松風敏一 (Sax) 渋谷毅 (P, Or) 秋山一将 (G)
 上村勝正 (B) 橋本卓司 (Ds)

1月25日(木) 吉田正広 Coltrane Tribute Band
 吉田正広 (Ds) 佐藤達哉 (Ts, Ss) 青木英明 (Ts) 諸戸勝也 (P)
 早川哲也 (B)

■ 井上淑彦 2DAYS ■

¥3,000

1月26日(金) clepsydra (クリプシドラ)

井上淑彦 (Ts, Ss) 林正樹 (P)
 佐藤芳明 (Acc) 仙道さおり (Per)



井上淑彦

1月27日(土) "fuse"

井上淑彦 (Ts, Ss) 田中慎正 (P)
 坂井紅介 (B) つの犬 (Ds)

1月28日(日) 坪口昌恭 TRIO + 2

坪口昌恭 (P, Effect) 菊地雅晃 (B, Effect) 藤井信雄 (Ds)
 三沢泉 (Vib) NUMB (Live Electronics)

1月29日(月) 坂田明 mii + ヤヒロ

¥3,500

坂田明 (Sax, Cl)

黒田京子 (P)
 バカボン鈴木 (B)
 ヤヒロトモヒロ (Per)



坂田明

1月30日(火) "a.t.m."

江藤良人 (Ds, Per, Voice)
 和泉聡志 (G, effect, Voice)
 佐藤帆 (Sax, Key, Voice)
 安東昇 (B)

1月31日(水) 村上寛 TRIO

村上寛 (Ds)
 佐藤允彦 (P)
 加藤真一 (B)



THERE'S A LOT OF THINGS THAT GIVE YOU THE BLUES.

Roberta Gambarini

ひとつひとつが私の宝物。

55 RECORDS

インタビュー by 川本冬彦

Photo by Reiji Maruyama



「これが今年2度目の来日。ジャズ専門誌の大賞を取るのに前後して、色々と急展開ですね。RG..アメリカでもそうなの。そのおかげもあって、今もまだFMステーションでしょっちゅう『イージー・トゥ・ラブ』がかかっているわ。」
 「コンサートなどのライブ活動にも忙しい?」
 RG..ええ、今年はずっと一杯。明日NYに選んでもオフは1日だけ。でも、今度の日本みたいに、地方を回るツアーがとて好きなの。ラーメン好きの私には特に(笑)。
 「そんな中、希望のセカンド・アルバム『ラッシュ・ライフ』ができました。それも名匠ハンク・ジョーンズとの希望の共演作が。」
 RG..スタジオ録音かデュオ・ライブかピアノ・トリオとのシヨウで、どちらも素晴らしいわ。
 「その名匠をして、『ロバート』となら10作でも20作でもやってみよう」と言わしめた。
 RG..それは「こちらこそ」なんです、ちょうど今、

曲順決めをしているところで、どうしたらいいかわからない。ひとつひとつが私には宝物と同じだから。
 「デュオのフォーマットでは、あなたの歌唱力が一層際立つ感じがしました。」
 RG..ありがとう。できる限り余計なものを削ぎ落として、自然体で歌うことに集中したつもりでも、まだまだねえ。
 「と言いますと?」
 RG..(笑)「歌が上手いねと言われるレヴェルよりもっと上に行きたいの。シヨウを終えてこう言ってもらえるのがいちばん嬉しいの。『ラッシュ・ライフ』ってこんなに素敵な曲だったのね」と。テクニクを聴いてもらうために歌ってるんじゃないからね、曲を音楽を聴いて欲しいから私はこの道に入ったんです。
 「物凄いテクニクと音量なのに、聴いていて威圧される感じがまったくしない。」
 RG..それが私には何にも勝る褒め言葉ね。
 「ただ、所々でカーメン・マクレエが見え隠れして、」
 RG..大好きな人だから、あり得てもおかしくないわ。でも、好きな歌手は男性のジョー・ウィリアムスも含めて数限りなくいて、誰かこれって人ばかり聴いてきたわけじゃないの。ピリー・ホリデイ、エラ・フィッツジェラルド、サラ・ヴォーンとか、名前を上げ始めたら切りがない。
 「ところで、ある程度キャリアを積んだのにデビューが遅かったのは、やはり納得いくまで自分を磨いてからということだったんでしょうか。」
 RG..ええ、それと同時に、プロデューサーからあれこれ言われるのが嫌いな(笑)。アルバムとライブが別物みたいになっちゃうのも嫌。そうこうしているうちにノラ・ジョーンズが出てきて、トレンドが一変したことも関係したかしら。いずれにしてもポップ・ジャズだけはやりにくかったです。
 「あくまでオーソドックスに行きたいと?」
 RG..クラシックにと言ってもらいたいわね。オーソドックスと呼ばれるほど格式張ってるつもりもないから。えっ、興味ですか、読書ね、特にフランス文学よ。

ラッシュ・ライフ / ロバータ・ガンバリーニ & ハンク・ジョーンズ

巨匠、ハンク・ジョーンズを迎えて、ファン待望の夢のコラボレーションが実現!

55 Records FNCJ-5519 ¥2,500(税込)
 2006/12/20 日本先行発売

01. ユー・アー・ゼア (Dave Frishberg / Johnny Mandel)
02. アイル・ビー・タイアード・オブ・ユー (E.Y. Harburg / Arthur Schwartz)
03. ホエン・ライヴ・アー・ロウ (Benny Carter / Spencer Williams)
04. ディープ・パープル (Peter de Rose / Mitchell Parish)
05. レミニシング (Gigi Gryce / Jon Hendricks)
06. サバertime (Irving Berlin)
07. ジャスト・スクイーズ・ミー (Duke Ellington / Lee Giances)
08. サムシング・トゥ・リヴ・フォー (Duke Ellington / Billy Strayhorn)
09. スターダスト (Hoagy Carmichael / Mitchell Parish)
10. ラッシュ・ライフ (Billy Strayhorn)
11. スカイラーク (ライヴ) (Hoagy Carmichael / Johnny Mercer)
12. ボディ・アンド・ソウル (ライヴ) (Eyton / Green / Heyman / Sour)
13. クール・ブリーズ (ライヴ) (Tadd Dameron / Billy Eckstine)
14. ラッシュ・ライフ (ライヴ) (Billy Strayhorn)

■ パートナ
 ロバータ・ガンバリーニ (vo)
 ハンク・ジョーンズ (p)
 ジョージ・ムラーツ (b) on 12-14
 ウィリー・ジョーンズ III (ds) on 12-14
 Track 1-10 2005年9月27日
 ニューヨーク、ノラ・スタジアムにて録音
 Track 11-14 2006年7月8日
 イタリア、ウンブリア・ジャズ・フェスティバルにてライブ録音。
 ミックス: アール・シュミット (キャピトル・スタジオ)



Live Life Roberta Gambarini & Hank Jones

NEW DISC INDEX

デイ・ドリーム
後藤 芳子



しっとりとした大人のムード、小粋でブルーな味わい、後藤芳子のすべてをひきだしたTBMのジャズ・ヴォーカル。水橋幸4が共演。

01. デイ・ドリーム
02. アイ・ウィッシュ・アイ・ニュー
03. ジス・イズ・オールウェイズ
04. ホワット・ア・ディアレンス・ア・デイ・メイド
05. エンジェル・アイズ
06. アイ・ゴット・イット・パッド・アンド・サット・エイント・グッド
07. ジェンシー
08. エヴリ・タイム・ウイ・セイ・グッドバイ

three blind mice
MHCP-10041
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



ブロード・オン・ザ・ロックス
横内 章次カルテット



ガッツのある横内章次とソフトな小西徹。2ギタリストの個性が溶け合った粋なサウンド。

01. ブロード・オン・ザ・ロックス
02. 2度東, 3度西
03. 朝日の如くさわやかに
04. 夜の訪問者
05. スウィングン・オン・ア・キャメル
06. ラヴァー・マン
07. メッセージ

three blind mice
MHCP-10040
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



ザ・ビッグ4
ジョージ川口とビッグ4



「ラヴ・フォー・セール」1曲を除きすべて松本英彦と市川秀男のオリジナルでかためたジョージ川口自身が誇るビッグ4の代表作。

01. インヴェンダーフ
02. ブルース・フォー・ビッグ・トーク・ジョージ
03. 月曜日のサンバ
04. アルバトロス
05. スリーピース・ファンク
06. ラヴ・フォー・セール

three blind mice
MHCP-10033
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



スリーピー
松本 英彦



日本のジャズ・テナー奏者の永遠の第一人者スリーピー松本英彦の最もクリエイティブな代表作。

01. デュークス・デイズ
02. あなたは恋を知らない
03. チェイシン・ザ・ブルース
04. ライト・ダウン・ステップ
05. マイ・ワン・アンド・オンリー・ラブ
06. タイフーン

three blind mice
MHCP-10032
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



ライヴ!
日野 皓正クインテット



日野皓正の意気込みが全開! ヨーロッパへの旅の直前73年6月のリサイタルのライヴ。73年SJ誌「日本のジャズ」部門第2位

01. ステラ・バイ・スターライト
02. スイート・ララバイ
03. ビー・アンド・ノウ

three blind mice
MHCP-10039
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



ライヴ・アット・ミスティ
山本 剛トリオ



74年クリスマスの夜「ミスティ」でのライヴ録音。愛用のNYスタンウェイ・フルコンを奏でる山本剛。楽しさに溢れるアルバム。

01. スイート・ジョージア・ブラウン
02. ラヴィング・タッチ
03. ターク・アイズ
04. モーニング

three blind mice
MHCP-10038
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



パペット
ブランドン・ロス



待望のセカンド・アルバム。シンガー・ソングライターとしての資質も遺憾なく発揮されたメロウでブルーな深遠なるジャズ。自身のクリア・ヴォイスをフィーチャーしたヴォーカル作品を5曲収録。

01. If You Come To Me / 02. May As Well Know
03. Aloeifa / 04. South / 05. O'People
06. Marigolds 4 LNOR / 07. Other Side Blues / 08. Cycle
09. Puppet / 10. Love From Above
11. Ordinary Before You / 12. News(Of You)

intoxicate records
INTD-1011
¥2,600 (税込)

2006/12/20 Release

Brandon Ross (guitars, banjo, piano, vocals)
Stomu Takeishi (acoustic bass guitar)
JT Lewis (drums)
Ron Miles (cornet)
Gregoire Maret (harmonica)
Melvin Gibbs (electric bass guitar)
Charles Burnham (violin)

OMA SOUND
OMA SOUND



ベーシスト鈴木勲率いる注目のグループ!! オマ・サウンド OMA SOUND 待望のファースト・アルバム

01. シンシアリー・ザ・ソング / 02. ヘビー・ムーン※
03. アヴェ・マリア / 04. キャデラック・ウーマン※
05. フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン / 06. ノット・ソー・グッド、ノット・ソー・パッド / サムワン・トゥ・ウォッチ・オーヴァー・ミー※ / 07. グッド・バイ・ボーク・バイ・ハット / 08. アランフェス協奏曲

ソニー・ミュージックダイレクト
MHCP-1220
¥3,059 (税込)

2006/12/20 Release

OMA SOUND
鈴木勲 (b,vo) / スガ・ダイロー (p) 1.2.4.5.6.8.
吉田智 (g) 1.2.4.5.6.8. / 小松伸之 (ds) 1.2.6.8.
吉岡大輔 (ds) 2.4.6.8. / 伊藤宏樹 (ts) 5
福原良次 (e-b) 1.4.5.8 / 森田修史 (ts) 1.5.

featuring
峰 厚介 (ts) 6.8 / クリヤ・マコト (synth,p) 3.4.6.8
坂井紅介 (b) 7 ベース・デュオ / maru (vo) 4

モーニング・フライト
福村博クインテット



トロンボーン界双頭の若鷲……福村博+向井滋春クインテットの情熱と詩情に満ちた名演。73年SJ誌ディスク大賞優秀録音賞第2位。

01. モーニング・フライト
02. イマジネーション作品1番
03. ウィンター・ソング
04. カズン・メアリー
05. 雨の中の兵隊

three blind mice
MHCP-10037
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



福村博クインテット

BLUE CITY
鈴木勲カルテット +1



デビュー盤「ブロー・アップ」で全国のジャズ・ファンの琴線をとらえた鈴木勲の第2弾。日本中のジャズ喫茶で最も聴かれたアルバム。

01. 身も心も
02. (8番街) 4 5 丁目
03. プレイ・フィドル・プレイ
04. ブルー・シティ

three blind mice
MHCP-10036
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



Fly to Possibility
RoundTripp



音楽に飽きたオトナたちへ……Jazztronik, FreeTEMPO等が参加の人気コンピシリーズ「Cafe Aperitivo」への参加も話題の [RoundTripp]。Jazzfunk, Bossa, Electronica を新次元に昇華したしなやかなグループと、ダイナミックでメロディアスなスケッチボーカルを融合。本物の音楽の魔法 (The Real Musicmagic) を追求した2ndアルバム……これに出発しない手は、ない。

01. RT-BLUES / 02. Bordeaux (FTP Edit) / 03. Rocket2006
04. Fly High / 05. A day out / 06. Wanderer / 07. Rhythm of Nature / 08. Precious / 09. Fly High (Samba-Electro Remix)

Musicmagic Records
MRR-0001
¥2,200 (税込)

2006/12/6 Release

Yukimasa Yoshiida (B,Prog,Comp,Arr)
Midori Takeuchi (Vo,Lyrics,Syn) / Tatsuya Morinaga (Gt)
Ken Otawa (Pf) / Yoichiro Yoshida (Sax)
Yukiko Nakura (Drs, Perc) / Akane Funaoaka (Fl)
Masami Chiba (Drs) / Sonomin (Turntable)

SEASON II
FAZJAZ.jp



FAZJAZ 第二章の幕開け リンカーン・ゴインズ、ゲイリー・ウィリスをゲストに迎える新生 FAZJAZ の新たなストーリーがここに始まる。

01. On Green Dolphin Street / Bronislaw Kaper&Ned Washington / 02. Humpty Dumpty / Chick Corea
03. Brilliant Corners / Theronious Monk
04. Acknowledgement / John Coltrane / 05. Resolution / John Coltrane / 06. Freedom Jazz Dance / Eddie Harris
07. Havona / Jaco Pastorius / 08. You don't know What love is / Don Raye & Gene De Paul / 09. Quartet No.2 Part2 / Chick Corea

VME
VGDBRZ-0024
¥3,150 (税込)

2006/12/7 Release

矢野孝一 (g) / 松本圭司 (p,key) / 村石雅行 (ds,v-ds)
ゲスト : Gary Willis (b) / Lincoln Goines (b)

スタンダード
今田 勝トリオ



まるでやがに仕上げた極上のスタンダード集。リズムにのったアドリブには思わず聴き惚れてしまう、今田勝が本領を発揮した名演集。

01. 恋に恋して
02. 云いだしかわて
03. 酒とバラの日々
04. 朝日の如くさわやかに
05. ホワッツ・ニュー
06. アイ・フォール・イン・ラヴ・トゥー・イージーリー
07. イット・クド・ハブン・トゥ・ユー

three blind mice
MHCP-10035
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



アランフェス協奏曲
金井 英人クインテット



闘将金井英人が井上淑彦・藤原幹典の2管を擁したクインテットのヒット作。

01. アランフェス協奏曲
02. ミスター・ガベ
03. コンガラチュレイション
04. シルク・ロード

three blind mice
MHCP-10034
¥2,415 (税込)

2006/12/20 Release



マイ・オール
羽仁 知治



ジャズのバックグラウンドを持ちながら、ファンキー&メロディアスをキーワードに、形にとらわれない自由なサウンドを実現した羽仁知治。ピアノ、ベース、ドラムの最もシンプルな編成であるトリオで、ジャズを超えた新しい音楽を発信する。このアルバムでは多彩かつ驚きのカバー曲を多数収録。

01. My All / 02. Moon Tone / 03. 27 o' clock / 04. Ain't it Funky Now (James Brown) / 05. Morning of Life / 06. Lawns (Carla Bley)
07. Fragile (Sting) / 08. Pursuit of a Dream / 09. What's Next?
10. That Lucky Old Sun (Haven Gillespie & Beasley Smith)
11. Purple Rain (Prince) / 12. Noon

Roving Spirits
RKJ-2027
¥2,500 (税込)

2006/10/25 Release

羽仁知治 (Piano, Fender Rhodes, Syn) / クリス・シルバース・ティン (Bass, Electric Bass) / スコット・レイサム (Drums)

IN AMERICA
DEFUNKT



ジョセフ・ボウイ率いる「ジャズから進化した」ファンク・バンドの88年の傑作! トロンボーンもギターも唸る!

01. スムース・ラヴ
02. イレイザー・ヘッド
03. アイ・ピース・オブ・マインド
04. イン・アメリカ
05. チェンジ
06. ラヴ・ユー・フロム・アフター
07. テル・ミー
08. スピリチュアル・スポンサー
09. セルフディスクロージャー

ANTILLES
PROA-57
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release

ジョセフ・ボウイ (vo, tb) / キム・アネット・クラーク (b, vo) / ビル・ビックフォード (g) / ジョン・マルケリン (tp) / ケニー・マーティン (ds, vo) / ロニー・ドレイトン (g) / トーマス・ドンカー (g)

★ダワーレコード限定発売!

Jazz Today



BLUES FOR WE

MEL BROWN

ブルーザーでヒップな R&B ちゅうことで、
ラス・アンサンブルでファンキーに行こう!

- 01. ツイスト・アンド・シャウト
- 02. ブルース・フォー・ウィ
- 03. オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ
- 04. サン・オブ・ア・ブリーチャー・マン
- 05. セット・ミー・フリー
- 06. フリアーキー・ジーク
- 07. インディアン・ギヴァー
- 08. ストレンジジャー・オン・ザ・ショア

IMPLUSE
PROA-56
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

メル・ブラウン (g, vo)
エイブラハム・ミラー (ds)
アーティ・パトラー (arr, cond)
オーケストラ



I LOVE THE BLUES, SHE HEARD MY CRY

GEORGE DUKE

クラブでもフュージョンでもプログレでも行け
ちゃう 70年代アフロ・ヘア時代の傑作!

- 01. ちゃりリット / 02. ルック・イントゥ・ハー・アイズ
- 03. シスター・セレス / 04. ザッツ・ホワット・シー・セツド
- 05. マシャブ / 06. ロッキンロール、アイ・ドント・ノウ
- 07. プリベア・ユアセルフ / 08. ジャイアント・チャイルド・ウィズイン・アス・エゴ / 09. サムデイ / 10. アイ・ラヴ・ザ・ブルース、シー・ハード・マイ・クライ

MPS
PROA-55
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

ジョージ・デューク (key, vo) / ジョージ・ジョンソン / リー・リトナー / ダリル・ステューマー (g) / ジョニー・ギター / フトソン (g, vo, foot-tapping) / トム・フォウラー (b) / ハイロン・ミラー (b, g) / レオン・チャクラ (ds, gongs, voice) / アイアート・モレイラ (per) / エミル・リチャーズ (per, marimba) / ルース・アンダーウッド (marimba, per, gongs) / ブルース・フォウラー (tb), フローラ・アリム (vo, voice) / ジャネット・ファガソン・ホフ (vo)



BOLD MUSIC

JOACHIM KUHN

知られざるキューンの69年のレア盤ここに復刻!
知られざる時代の BOLD なオング!

- 01. マイ・フレンド・ザ・ヨキ
- 02. ノーバディ・ノウズ・ユー・トゥモロウ
- 03. ボールド・ミュージック
- 04. ヴァンパイアーズ・キャッスル
- 05. ディプレッション・アンド・イリュージョン
- 06. 第三次世界大戦
- 07. メッセージ・フロム・アップステアーズ
- 08. ザ・チャイルド・アウト・ゼア・サムホエア

MPS
PROA-54
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

ヨアヒム・キューン (p, as, antelope-horn, shanai, Indian bells, gong, steeldrums, voice),
JF ジェニー・クラク (b, cello)
ジャック・トロ (ds, steeldrums, tambourine, voice)
ステュー・マーティン (ds, bells, voice)



TOME VI

GIL MELLE

俗に言う“この世で最初のエレクトリック・ジャズ・アルバム”! 奇人ギル・メレ問題作!

- 01. ブルー・カーサー
- 02. エルジン・マーブル
- 03. マン・ウイズ・ザ・フラッシュライト
- 04. ジョグ・フォールズ・スプリング・ソング

VERVE
PROA-53
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

ギル・メレ (ss, Tome VI, Effects Generator)
フォレスト・ウェストブルック (p, Electar)
ペンファラル・マンシェーズ (b, cello, Envelope)
フレッド・C. ストフレット (ds, Doomsday Machine)



THERE'S A WHOLE LALO SCHIFRIN GOIN' ON

LALO SCHIFRIN

シフリンの“想定不可な音”の魔術が全開! 「スパイ大作戦」誕生翌年のエキゾでイージーな傑作!

- 01. シークレット・コード / 02. ディソルヴィング
- 03. マチネーション / 04. プライド・オブ・ザ・ウィンド
- 05. ライフ・インシュアランス / 06. ハウ・トゥ・オブ・アップ・ウィル・ザ・モースト・ビュティフル・ウィンドウ / 07. ヴァジニエツド・マッシュルム
- 08. トゥー・ベタルズ・ア・フラワーズ・アンド・ア・ヤング・ガール / 09. ウォート・ガム・ランドスケープ
- 10. ザ・ジェントル・アースクエイク / 11. ホークス VS デイヴス

PHILIPS
PROA-52
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

ラロ・シフリン (p, synth, arr, cond)
オーケストラ



SCORPIO AND OTHER SIGNS

GARY MCFARLAND

あなたは何座? スリリングで色彩感に満ちた 60年代ファンキー&ヒップ・サウンドがあなたの星座の運勢占います!

- 01. テイク・ケア... ビューア / 02. ホワット・エヴァー・ホエネヴァー / 03. デイズ・ティップト・インドリームズ / 04. トラング・トゥ・ファイナル・ア・ウェイ
- 05. ノー・アサー・ウェイ / 06. サンクス、パット・ノー・サンクス / 07. サッド・アイズ / 08. ロング・ライヴ・ザ・キング / 09. クローズ・ユア・アイズ・アンド・フォロ・ミー / 10. キャント・ヘルプ・ダンシング / 11. ランナウェイ・ハート / 12. アイ・ドント・ニード・ザ・レイン・トゥ・シー・レインボーズ

VERVE
PROA-51
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

ゲイリー・マクファラランド (vib, arr)
不詳オーケストラ



GOES ON

KLAUS DOLDINGER

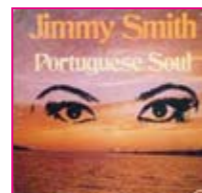
オルガン、パーカッションも入ったちよいラテンなブルーザー感覚。コレが60年代ドイツなジャズってことです!

- 01. ジェイキング・ザ・ブルース
- 02. クワーテンツルザ
- 03. ザット・ブルーザー・サウンド
- 04. ディアーズ
- 05. ファイヴ・フォー・ユー
- 06. ラン、ベイビー、ラン
- 07. ウォッチ・イット
- 08. ジャスト・ア・リトル・ビット・オブ・ソウル

PHILIPS
PROA-50
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

クラウス・ドルディンガー (ts, ss)
イングリッド・ホフマン (org, p)
フォルカー・クリーゲル (g) / ベーター・トルンク (b)
ヘルムート・カンドルベルグ (b, bass-g)
シズ・シー (ds) / ファッツ・サデー (per)



PORTUGUESE SOUL

JIMMY SMITH

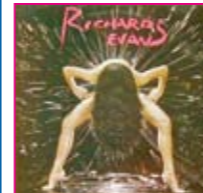
ブルース・アンサンブルとともにファンクなグルーブを展開! ジミー・スミスの73年の異色作!

- 01. アンド・アイ・ラヴ・ユー・ソー
- 02. ブラッ
- 03. オープニング: プロローグ
- 04. 第一楽章: ホルト・ギーズ・ソウル
- 05. 第二楽章: リチュアル
- 06. 第三楽章: フェアウェル・トゥ・リスボン・タウン

VERVE
PROA-49
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

ジミー・スミス (org)
サド・ジョーンズ (arr, cond)
オーケストラ



RICHARD EVANS

RICHARD EVANS

クラブ御用達キラークラック「カプリコーン・ライジング」収録の79年の傑作!

- 01. カプリコーン・ライジング / 02. ファンキー・デイ
- 03. ド・レ・ミ・フォー・ソウル / 04. ウィンディ・シティ
- 05. エデュケイテッド・ファンク
- 06. フィール・ザ・ファイア / 07. パーニング・スピア
- 08. ラウンド・ミッドナイト

HORIZON
PROA-48
¥2,000 (税込)

2006/10/18 Release タワーレコード限定発売!

デンジール “ブロードウェイ” ミラー (el-p, clavinet) / リンダ・ウィリアムス (p, vo) / デリー・フライアー (synth)
ロス・トラウト / ダニー・リーク (g) / ラリー・ポール (b)
モリス・ジェニングス / デル・フレコロ / ランデル・クーパー (per) ストリングス、ブラス&ヴォーカル
ゲスト
エディ・ハリス (sax) / ケネス・クルーズ・マン (ts) / “タワ” オブ・パワー” ホーン・セクション



The Sentinel

AERIAL

Tracer AMC, 65daysofstatic, ef, miao と時代を切り裂くサウンドをお届けする Thomason Sounds より北欧スウェーデンより現れた次世代ポストロックの表現者が登場!

- 01. Heads gone
- 02. My god, it's full of stars
- 03. 46th street
- 04. Walk with me
- 05. You will all die, all things will
- 06. Youth and student travel
- 07. The dark star deleters
- 08. Secret goddes
- 09. Spark-lit stairs
- 10. Fuji

THOMASON SOUNDS
TSIP-2017
¥2,400 (税込)

2006/12/17 Release



ノンストップ!カチャーシー

Mixed by TAKUJI a.k.a. GEETEK

カチャーシーを踊る際に演奏される楽曲を、沖縄を代表するDJ・ミキサーのTAKUJI a.k.a. GEETEK がノンストップで編集し、音響的な遊びを施した、世界初のノンストップ・カチャーシー集です。ストリートな民謡から、エレキサウンド、クラブサウンドと多様なサウンド&アーティストを収録した、まさに踊る為の一枚です。

- 01. 谷茶前〜伊計〜踊り節 / うた・三線: 上原純三・稲嶺盛彦
- 02. 前田節〜サファン節〜稲嶺り節 / うた・三線: よなは徹・喜屋武均 / 03. ありがとら〜りんけんバンド / 04. チントウタン / ネーネーズ / 05. 豊年春唄 / うた: 内里美香 / 06. アッチャー・小 / 登川誠仁&知名定男 / 07. 唐船どーい / うた・三線・ハヤシ・よなは徹 ほか 7名 / 08. 多幸山 (オキナワ・タブ・ブー・ブー) / うた・三線: よなは徹・上原純三 Remixed by TAKUJI a.k.a. GEETEK / 09. 喜手久 / うた・三線: 松田一利・よなは徹 ほか 10. チェ小チエ小 / うた・三線: 登川誠仁 / 11. 唐船どーい / うた・三線・ハヤシ・よなは徹 ほか 11. 唐船どーい / うた・三線・ハヤシ・よなは徹 ほか 12. カチャーチンどん / 前川守賢 / 13. 早蕨手久郎 / 登川誠仁 / 14. クレージー・カチャーシー / 登川守賢&チンパル / 15. 豊年春唄 (ドラムンバース・2006年のニュー・ミックス) / うた: 内里美香 Remixed by TAKUJI a.k.a. GEETEK / 16. 唐船どーい (ジャンクル) / うた・三線・ハヤシ・よなは徹 ほか Remixed by TAKUJI a.k.a. GEETEK

リスベクトレコード
RES-117
¥2,100 (税込)

2006/12/6 Release



sunaga t experience works ~pieces pour les femmes~ World Standard.06-

Sunaga t experience

DJ 層 20 余年、お馴染み「レコード番長」こと、須永辰緒がこれまでに行ってきた数百年にも及ぶ膨大な数のリミックス及び、プロデュース作品から、1曲を除いて全て女性ヴォーカルのみに絞り、更にNON-STOP ミックスを施して新たな息吹を吹き込みました。そんなスペシャル・パッケージを大人気のWorld Standard シリーズ最新版としてこの冬、須永辰緒より「今を生きる女性たちエールを送る」スペシャル・ギフト!

- 01. S.B.1 / 02. Love Life (Sunaga t experience Remix) / orange pekoe
- 03. Sunshine Express / Isabella Antena / 04. Before Dawn / akiko
- 05. 海が教えてくれたこと (Sunaga t experience Remix) / 奥山みなこ
- 06. S.B.2 / 07. Gee Baby, Ain't I Good To You / 青木茉莉 / 08. flower / Nao feat. RYOJI (ケツメイシ) / 09. Heart Breaker (Sunaga t experience Remix) / Jhett feat. Rinko Urashima / 10. Grain (Sunaga t experience) / Taken from O.S.T. MONSTER / 11. パーフェクトワールド (A night at Organ b. Mix) / PIZZICATO FIVE / 12. 歌ニテ (Sunaga t experience Remix) / 荻野ジュリ / 13. High at NOON (Dedicate to NOON Osaka) / Sunaga t experience / 14. Always Love (Sunaga t experience Remix) / Fabio Noble / 15. Kiss One More Time (Sunaga t experience's EURO / SET Remix) / Tommy February 6 / 16. かずかなし / Sunaga t experience

flower records
FLRC-049
¥2,709 (税込)

2006/12/6 Release



ミュージック・フォー・ムービー・バイカーズ+リミキーズ

カーダ

マイク・パットンの秘蔵子「カーダ」による最新作。どこにもあるはずのない映画を喚起させるようなどこにもあるはずのないたった一つのサウンドトラック。

- [Disc1]-Original album-
01. Smokey / 02. Mainstreaming / 03. From Here On It Got Rough / 04. Spindle / 05. The Mosquito And The Abandoned Old Woman / 06. Julia Pastrana / 07. No Man's Land / 08. Daily Living / 09. The Small Stuff / 10. Celibate / 11. Retirement Community / 12. Birds Of Prey / 13. In Hora Mortis
- [Disc2]-Remixes album-
01. Smokey - LKCO remix / 02. Mainstreaming - DE DE MOUSE remix / 03. From Here On It Got Rough - piano remix / 04. Spindle - Metallic 999 remix / 05. The Mosquito And The Abandoned Old Woman - Cycheouts Ghost remix / 06. Julia Pastrana - Joseph Nothing remix / 07. No Man's Land - Com.A remix / 08. Daily Living - Shiro the Goodman remix / 09. The Small Stuff - Soloal One remix / 10. Celibate - milky-chu remix / 11. Retirement Community - end remix / 12. Birds Of Prey - Olive Oil remix / 13. In Hora Mortis - milch of source remix

ROMZ RECORD
RMZ-024/5
¥2,500 (税込)

2006/12/9 Release



兎に角 tonikaku

YAS-KAZ

打楽器の巨匠 YAS-KAZ による 10 年ぶりの新作第 1 弾『兎に角 tonikaku』が遂にリリース。ビートメイキングの鬼才、Goth-Trad によれば『ビートの宝庫だ。』と言わしめた傑作。長い沈黙を経て、POPGROUP と共に完全復活。目を閉じて YAS-KAZ ワールドを堪能して下さい。

- 01. パプリカとあるいは黄漢奇聞 稲垣足穂に捧ぐ
- 02. 弓と琴 岡田武英 / パスに捧ぐ
- 03. VERA (ヴェラ) ヴィリエ / ト・リラダンに捧ぐ
- 04. 裸の王様 坂道に転ぶの巻 (東洋編)
- 05. 雪の朝から氷の朝 土方義に捧ぐ
- 06. 追: うさぎとめい子 藤原道徳 / ダンセイニ捧ぐ
- 07. WADJ 2nd Theme "DAWN CHILD" MOMO 2003 ("Live in Moscow 2003") ALL Produced by YAS-KAZ 五十嵐一生 (Trumpet) / マンディ・マッサー (Vocalization) 坂田明 (Bass Clarinet) / 渡辺達 (Fretless E. Bass) 今堀恒雄 (Guitar) / 原田節 (Ondes Martenot)

POPGROUP Recordings
POP104
¥3,000 (税込)

2006/11/11 Release



クリスマス・ソング

ワールズ・エンド・ボーイフレンド

ワールズ・エンド・ガールフレンドの別名義プロジェクト、ワールズ・エンド・ボーイフレンドによる初のクリスマス・ミニ・アルバム。2001年のクリスマスに400枚限定で、それもごく限られた店舗だけで販売され即完売した8センチCD「クリスマス・ソング」。新たに未発表2曲を加えて12センチCDとして新装発売!

- 01. Rotten Pig Parade
- 02. Very Merry Happy
- 03. Planetarium Ghost Train
- 04. aichel Mackson
- 05. Miss Piggy
- 06. Rope Skip Loop
- 07. Honeymoon

ROMZ RECORD
RMZ-011
¥1,890 (税込)

2003/11/25 Release



かっこいいボーガルー

渚ようこ×半田健人

かっこいい男とかっこいい女! 今世紀最高の「かっこいい世界 (デュエット)」はここにある

- 01. 「かっこいいボーガルー」 / 渚ようこ duet with 半田健人
- 02. 「新宿、泪知らず」 / 半田健人 duet with 渚ようこ
- 03. 「かっこいいボーガルー」 / 健人と一曲 (カラオケ)
- 04. 「かっこいいボーガルー」 / ようこ一曲 (カラオケ)
- 05. 「かっこいいボーガルー」 / 二人で一曲 (カラオケ)
- 06. 「新宿、泪知らず」 / tiamo bambina ~ Karaoke ~
- 07. 「新宿、泪知らず」 / tiamo bambina ~ Karaoke ~
- 08. 「新宿、泪知らず」 / tiamo bambina e bambino ~ Karaoke ~

TAKUMI NOTE
TECG-5
¥1,200 (税込)

2006/12/20 Release

渚ようこ / 半田健人

Jazz Today



Into the Lil'

Lil'

CLUB MUSIC をこよなく愛する人々へ・・・
瑞々しく Heartful な歌姫、爽快でどこか切ない
メロディ それらを際立たせるスピリチュアル・ト
ラック。CLUB MUSIC DUO 『Lil'』デビュー。

01. intro / 02. バレード
03. カメレオン / 04. mica
05. Time of Heaven / 06. interlude
07. Devil's daily game / 08. Into with you
09. outro / 10. Your Affection-Kaskade mix.

t.sugu 作曲・アレンジ
uclo 作詞・vocal

デルファイサウンド
MDMA-004
¥2,310 (税込)

2006/12/20
Release



Re-Cool Reflections

寺尾聡

大ヒットアルバム「Reflections」を25年ぶりに
同じメンバーで Re-Recording し、「Cool」に
生まれ変わった「Re-Cool Reflections」!
「ルビーの指輪」のスタジオライブバージョンも
収録。

01. Re-Cool HABANA EXPRESS
02. Re-Cool 渚のキャンパリ / ソーダ / 03. Re-Cool 喜望峰
04. Re-Cool 二季物語 / 05. Re-Cool ルビーの指輪
06. Re-Cool SHADOW CITY / 07. Re-Cool 予期せぬ出来事
08. Re-Cool ダイヤル M / 09. Re-Cool 北ウイング
10. Re-Cool 出航 SASURAI / 11. ルビーの指輪 1981

エイベックスエンタテインメント
IOCA-20195
¥3,150 (税込)

2006/12/20
Release



Wordless Anthology III

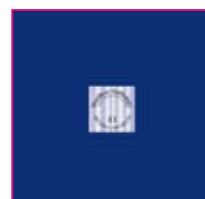
T-SQUARE

F1 テーマソングとなり大ヒットを記録した
「TRUTH」以降の黄金期からのセレクション。
「MISS YOU」の未発表ライブテイクを収録。

01. TRUTH
02. TWILIGHT IN UPPER WEST
03. MISS YOU
04. DAISY FIELD
05. WIND SONG
06. MEGALITH
07. ROMANTIC CITY
08. 明日への扉
09. COPACABANA
10. 夏の悪魔様
11. CROWN AND ROSES
12. PIOGGIA DI CAPRI

VILLAGE
VRCL-2050
¥2,625 (税込)

2006/12/20
Release



Wordless Anthology II

T-SQUARE

THE SQUARE が大ブレイクしたフュージョ
ン・ブームの時代の集約。
『IT'S MAGIC』『FORGOTTEN SAGA』の未発表
ライブテイクも収録!

01. CHOU CHOU
02. IT'S MAGIC (未発表ライブテイク)
03. CHANGE
04. HEARTS
05. SABANA HOTEL
06. TRAVELERS
07. CAPE LIGHT
08. OMENS OF LOVE
09. IN THE GRID
10. FORGOTTEN SAGA (未発表ライブテイク)
11. TAKARAJIMA

VILLAGE
VRCL-2049
¥2,625 (税込)

2006/12/20
Release



Wordless Anthology I

T-SQUARE

THE SQUARE 初期の4枚のアルバムからのセ
レクション。
幻の未発表曲スティーヴィー・ワンダーの「BIRD
OF BEAUTY」収録!

01. FUTURE FLY
02. BIRD OF BEAUTY (未発表曲)
03. A FEEL DEEP INSIDE
04. LUCKY SUMMER LADY
05. TAKE THE LONG ROAD
06. WRAPPED AROUND YOUR SOUL
07. STIFF NAILS
08. TEXAS KID
09. TOMORROW'S AFFAIR
10. BANANA

VILLAGE
VRCL-2048
¥2,625 (税込)

2006/12/20
Release



PLAY JACO

~A TRIBUTE TO JACO PASTORIUS by Japanese Top Bass Guitarists

V.A.
すべてのベーシストたちは、それぞれの胸の中
に「ジャコというハート」を持っている。国内ト
ップ・ベーシスト達による、初のジャコ・パ
ストリアス・トリビュート・アルバム!!

01. ティーン・タウン/日野「JINO」賢二 / 02. コ
ンティニューム/納浩一 / 03. トレイシーの肖像/櫻井哲
夫 / 04. レザー・ジャイアント・ステップス〜レザー
/ 今沢カゲロウ / 05. パーバリー・コースト / AKIRA
/ 06. スラック/櫻井哲夫 / 07. リバティ・シティ/コ
モプチ・キイチロウ / 08. グッド・モーニング・エイ
/ AKIRA / 09. ジョンとメリー/今沢カゲロウ / 10.
ソウル・イントロ〜ビューティフル・スピリット〜ザ
・キーン/日野「JINO」賢二 / 11. スリー・ヴェー
・オブ・ア・ジークレット/納浩一 / 12. ラス・オラス
/ コモプチ・キイチロウ

キング/低音 ELECTRIC
KICJ-514
¥3,000 (税込)

2006/12/21
Release



Kiss Kiss Kiss and still Kiss

スイート・ボイス

ジャズにキスして。「ワルツ・フォー・デビー」
「ユード・ビー・ソー・ナイス・トゥ・カム・ホ
ム・トゥ」などジャズの人気スタンダード曲に
加え、日本オセロ連盟公認イメージソング「ジ
ーナ」を含む全12曲。

01. 恋人よ我に離れ / 02. タキシード・ジャンク
03. ワルツ・フォー・デビー
04. ユード・ビー・ソー・ナイス・トゥ・カム・ホ
ム・トゥ
05. ジーナ / 06. キス・キス・キス / 07. スム
・オペレーター
08. ブレイクアウト / 09. フォーエヴァー
10. ユー・レイズ・ミー・アップ
11. ドント・メイク・ミー・クライ
12. トラスト・ミー

キング/バドル・ホイール
KICJ-513
¥3,000 (税込)

2006/11/22
Release



BassDays

今沢カゲロウ

世界を駆けるベースニンジャ、今沢カゲロウ。
キング低音シリーズより遂に登場! ベース一本
で脳の低音中枢を刺激、オーディエンスを熱狂
させた「ヨーロッパ・ベースデイ 2006」凱
旋アルバム。

01. Encyclopedia Of Bass Art / 02. チュニジアの夜
 03. trefoil / 04. 処女航海 / 05. IL
 06. Don't You Worry 'Bout A Thing
 07. 枯葉 / 08. Grey Zone / 09. V / 10. trefoil treat
 11. Ninja Coming / 12. Naima
- 今沢カゲロウ:
Moon MBC 6string fretless bass "Q1.special", Moon MBC
6string fretted bass "Q1.special", Musicman 5string
bass, Roland GR bass, synthesizer, Voice
神保彰: Drums(2,6)
アート・ハンド: Percussion, Drums(4,7,9,11)

キング/低音 ELECTRIC
KICJ-512
¥2,800 (税込)

2006/11/22
Release

INFORMATION

羽仁知治トリオ with 上田正樹

X'mas スペシャルライブ
jazz と blues のコラボレーション一夜限りの特別ライブ!!
【日時】12月20日(水) Charge ¥12,000
Dinner 19:00 start 20:30
【場所】吉祥寺チャチャハウス
武蔵野市吉祥寺本町 2-13-14 B1F TEL: 0422-20-6730
http://www15.ocn.ne.jp/~cha_cha/index.html
【出演】羽仁知治 (p) 樋沢達彦 (b) 吉尾弘弘 (ds)
ゲスト: 上田正樹 (Vo)

須永辰緒

代官山 AIR『World Standard.06』クリスマス&リリースパーティー
今回のLIVEは超豪華!! 今を生きる女性達に送る -World
Standard.06- のリリースパーティーに相応しい、オール女性ボーカ
リストと Sunaga t experience のコラボレーションが実現!! この
パーティー自体がクリスマスプレゼントといっても過言ではありません。
イルミネーションがきれいに光り輝く冬の夜を、さらに素敵な
ものへと誘います。
【日時】12月22日(金)
Door: ¥3,500/1d With Flyer: ¥3,000/1d
Air Members, Flower Records Mail Members: ¥3,000/1d
open/start 22:00
【場所】代官山 AIR
TEL: 03-5784-3386
【出演】DJ
Main Floor: 須永辰緒、
Little Big Bee a.k.a. Eitetsu Takamiya
Lounge: DJ NORI's Special Long Set
Opening: DJ ISOROU
Live
Sunaga t experience plays with akiko,
eico, Asa Festoon, Mika Arisaka, Arvin Homa Aya
VJ: VALC



キッズ・ミート・ジャズクリスマス・2006

ジャズを体で感じ、一緒に歌う・・・。
子供とともにクリスマスを楽しめる、一
流のアーティストによる最高のエンターテ
インメント+ワークショップ!!
【日時】12月25日(土)
1回目 Open 12:30 Start 13:00
2回目 Open 15:00 Start 15:30
全席指定:大人:¥4,200 子供(3歳以上中学生以下)¥2,800 (税込み)
*3歳未満は無料。但しお席が必要な場合は有料となります。
*授乳室もご用意しております。
【場所】浜離宮朝日ホール
【出演】ティナ・ハンチャード(Vo)、原 朋直(Tp)、スティーブ・サククス(Sax)、
宇川彩子(Tap)、ユキ・アリマサ(P)、原 大力(Ds)、
佐藤 “ハチ” 恭彦(B)
スペシャルゲスト: 矢野沙織 (Sax)
小川もこ
【曲目】「星に願いを」、「ドレミの歌」、「サンタが町にやってきた」ほか
【問合せ】イーラス受付電話番号 0570-06-9905 (音声自動応答)
イーラス受付ページ(PC・携帯) <http://eplus.jp/santa/>
公演事務局 0570-06-9939
特集ホームページ: <http://eplus.jp/kids-jazz/>



Fazjaz.jp

Roland Presents - Fazjaz.jp スペシャルライブ
【日時】1月10日(水) Open 18:30 Start 19:00
前売り券 ¥1,500 (税込) 当日券 ¥1,800 (税込)
会場にてドリンク代別途 ¥500 (税込)
【場所】渋谷 RUIDO K2
【問合せ】ミュージックランド KEY 渋谷店 4F
「ドラムフロア」TEL: 03-3463-0606

e.s.t. LIVE IN JAPAN 2007

【日時】1月12日(金) Start 19:00
【場所】横浜・関内ホール
【問合せ】サンライズプロモーション東京 TEL: 0570-00-3337
<http://www.sunrisetokyo.com/>
【日時】1月13日(土) Start 18:00
【場所】東京・渋谷 Bunkamura オーチャードホール
【問合せ】鯉沼ミュージック TEL: 03-3404-6890
<http://www.koinumusic.com>
【日時】1月14日(日) Start 17:00
【場所】大阪・なんば Hatch
【問合せ】キョードー大阪 TEL: 06-6233-8888
<http://www.kyodo-osaka.co.jp/>



ジェシ・ヴァン・ルーラー

ヨーロッパを代表する、ジャズ・ギタリスト、ジェシ・ヴァン・ルーラー来日決定!!
【日時】2月9日(金)
【場所】モーション・ブルー・ヨコハマ TEL: 045-226-1919
【日時】2月10日(土)・2月11日(日)
【場所】東京丸の内 コットン・クラブ TEL: 03-3215-1515



クリフ・リチャード

クリフ・リチャード4年ぶり来日公演決定!
【日時】2月18日(日) Open 16:00 Start 17:00
S席 ¥15,000 A席 ¥10,000 (税込)
【場所】パシフィコ横浜・国立大ホール
【問合せ】キョードー横浜 TEL: 045-671-9911
他プレイガイドにて



チケット発売中

アキコ・グレース×須永辰緒

アキコ・グレース×須永辰緒クリスマスパーティー
【日時】12月24日(日)
1st Open 18:00 Start 19:30
2nd Open 21:00 Start 22:00
Music Charge: ¥4,500 (税込 / 入替制)
【場所】渋谷 JZ Brat
TEL: 03-5728-0168
【出演】Akiko Grace/ 須永辰緒

よなは徹

よなは徹プレゼンツ カチャーシー・ア・ゴーゴー vol.3
【日時】12月24日(日) Open 17:00 Start 18:00
前売り ¥5,250 (税込) / 当日 ¥5,775 (税込) 1ドリンク付き
【場所】渋谷クラブアクトロ TEL: 03-5728-0168
【出演】よなは徹・金城実・内里美香・松田一利・高宮城実人
スペシャルゲスト: 津波恒徳 (つは こうとく)
【発売所】チケットぴあ
0570-02-9999
0570-02-9966 (Pコード: 237-895)
ローソンチケット
0570-084-003 (Lコード: 35735)
e+ (イープラス) <http://eee.eplus.co.jp>
会場
銀座わしたショップ、わした上野店、わした川崎アゼリア店、
わした日暮里店
【問合せ】クラブアクトロ: 03-3477-8750
リスペクトレコード: 03-3746-2503

本誌編集長の当方見聞録!

編むコト、 編む者、 編んだもの。

text by 末次安里

この師走の怒涛の入稿トンネルを抜けたら、2007年版の手帳を買いに行き、イヴが最終日の『大竹伸朗 全景 1955-2006』@東京都現代美術館を数日観覧しに行き、この間買い揃えたキリンジの全作品を聴き倒し、今年読みかけのままになっている書籍を読了し、日々をブレ大掃除に当てるつもりだ。そんな予定を脳裡に思い描きながら、さて、2006年で最も精神上の費用対効果が濃密だったものは何だろうか…と考えるにやはり、躊躇なく他の表現物を何馬身も引き離してダントツの1位にランクされるのは「大竹伸朗 カット+ペース」を持集した『アイデア idea 319』である。この大竹特集号は購入以来、本誌の次号企画を黙考しながら、被取材者への質問事項を整理しながら、外注原稿を校正しつつ、あるいはサンプル盤の山と対峙しながら、何度広げても眺めたか判らない。圧巻としか言いようのないスクラップブックのグラビアを何度も開いては閉じ、珈琲を飲んで再度開き、ワインを呑み干しては書棚に戻した。「編むコト」への情熱と絶え間ない持続の意志、じぶんの体温温度や嗅覚への揺るぎない自信、やがて立



キリンジ / DODECAGON

ちのぼってくるものへの驚愕と愉悅…媒体は違っても同じ「編む者」として、あの大竹特集号から教授された想いは深い。

要はいつだって「編むコト」「編む者」の情熱に惹かれてきた。その半ば偏愛的な微熱への共感がレジへ走らせ、チケットを買わせ、今日も書庫を重くする。後日、最新の手帳を購入したらまず、2006年12月の欄にかの大回顧展の半券を貼り付けよう。越年の架け橋として、「編むコト」を深化黙考するための象徴としてそれを貼ろうと思うのだ。

※

次に1月後半の頁を開き、1月27日から始まる『MUSIC DOC. FES.』の上映日程を全て書き入れる。好評だった世界の音楽ドキュメンタリーを一同に集める注目の映画祭、そのプレス資料で浅井 隆 (アップリンク主宰) はこう



述べている。レコード店での「ワールド・ミュージック」や「エスニック」といふジャンル分けは便宜上分からないわけでもないが、ただ、世界の文化の多様性を意識すると「ワールド・ミュージック」や「第三世界」という言葉に欧米を優位に考える傾向が有ることにひっきりを感じてました、と。



ゆえに同特集上映を「編む」際のコンセプトは「same planet, different music (同じ地球上の様々な音楽)」となり、「世界は一つだ」というのではなく、同じプラネットに生きていて、同じところもあるけど全然違うね」と、その相違を美しく感じてほしいという。



今回の上映作品は、エディット・ピアフにも譬えられるレバノンの歌姫ファイルーズに寄せる民衆の想いをつづさに追った『愛しきベイルート / アラブの歌姫』(03/オランダ)。マイケル・ナイマンをして「最も興味深いながらも知られざる20世紀音楽について私たちが発見し正しく認識することへ導いてくれる類い稀なアーティスト」と言わしめたおもちゃのピアノ奏者を描いた『アート・オブ・トイ・ピアノ / マーガレット・レン・タンの世界』(04/米・シンガポール・香港)。他にもNYのポスト・パンク・シーンを包括的に綴る『キル・ユア・アイドルズ』(06/米)や、ヒップホップ産業の舞台裏を写す『ミックステープ』(05/米)。幼少期に同じポリオを患って身体障害を抱え、やがてラスト信仰で音楽的に結びついた3人の聖地ツアーを伝える『イスラエル・ヴァイブレーション』(95/米)…等々、いずれも見逃せない作品が目白押し。詳細はUPLINK HP(www.uplink.co.jp)で確認を!



※

さて、2006年の師走の声を目前にして「CDを編むコト」の情熱を感じさせる、二つの復刻企画群が店頭で顔を揃えた。一つは「NO MUSIC, NO LIFE」を謳うTOWERレコード限定発売の「完全限定生産盤」10タイトルで、余程のジャズ通も非所蔵の幻盤が選ばれ、そのほとんどが「世界初CD化」(もしくはオリジナル仕様での初CD化)といふ話題企画。誰が呼んだか、「DIG UP THE PIECES」、その名も『掘り返し名盤』シリーズと冠せられ、傾向もバラバラならば視聴後の印象もまさに十人十色。が、知られざる音楽遺産を熟練の耳で発掘しては開示し、「とにかく皆さん、自由に聴いて、感じて!」といふTOWERスタッフ陣の「編む情熱」が全体から迸る10タイトルである(内容の詳細は新譜欄を参照)。

もう一方の、『スリー・ブラインド・マイス

名盤復刻シリーズ』も並々ならぬ情熱で「編まれた」完全限定生産盤。日本のインディーズの嚆矢にして、そのアナログ録音の素晴らしさで90年代はJVC開発のxrcd版も好評を博したTBM。近年はその遺産の行く末がさまざまに噂された同レーベル音源群だが結果、SONYダイレクト社によるハイブリット・ディスク仕様で随時復刻されるといふかたちに落ち着き、再び陽の目をみるコトになったのは文字どおり「TBM 育ち」の世代であるじぶんには嬉しい限りの朗報である。ここには祝・復刻の象徴として、11月22日発売ぶん10タイトルのなかから大好きな『TOKI / 土岐英史カルテット』を掲載しておくが、130とも言われるTBMカタログのなかから今後いったい何タイトルが蘇るのか注目される。可能な限りオリジナル・アナログ盤を忠実に再現した紙ジャケット仕様、曲順や内容もオリジナルを踏襲したそうだが、復刻の順番は「当時の帯まで完璧に復刻できるものから順次出していきたい。なかには初回盤には「帯があった!」とも「いや、なかったのでは…」とも複数証言が囁かれている作品があるので真相を鋭意調査中なんです(笑)」と制作関係者は明かす。こんな「編む努力」を聞けば、こちらも気長に待てるといふものではないか。なお、TBMの名盤復刻に伴ない、本誌では次号から何らかの連載コラムを検討中であるコトも追記しておこう。12月20日発売の10タイトルについては新譜欄を参照してもらい、TBM世代はもちろんのコト、若い耳との新鮮な邂逅も期待したい。

で、前号下版以降のじぶんは「文章を編む」人々の著作として、新刊・古書を織り交ぜな

がここに掲載した書籍を味読した。2007年は「編む悦び」をもっと紙面に反映したい所存である。 Merry Christmas & A Happy new year !!

RICHARD EVANS / RICHARD EVANS
HORIZON PROA-48 2006/10/18 Release
¥2,000 (税込)
タワーレコード限定発売!

TOKI / 土岐 英史カルテット
three blind mice 2006/11/22 Rereas
¥2,415 (税込)

<p>山本容朗著 『人間・吉行淳之介』 (文春文庫)</p>	<p>堀江敏幸著 『いつか王子様で』 (新潮文庫)</p>	<p>星野智幸著 『目覚めよと人魚は歌う』 (新潮文庫)</p>	<p>中沢新一著 『僕の叔父さん 網野善彦』 (集英社新書)</p>	<p>後藤繁雄・監修 『スーザン・ソントグから始まる / ラディカルな意志の彼方へ』 (光村推古書院)</p>	<p>スーザン・ソントグ著 『人間も愛する新しい感情とは何か 内なるヴェトナムを脱ぐ難かな恋』 (晶文社選書 15)</p>
--	---------------------------------------	--	--	---	--

Jazz Today 発行人: 鯉沼利成 jazz today 33号 制作: jazz todayプロジェクト
 編集人: 末次安里 表紙画: タジマヤスタカ 〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7-402
 デザイン: Factory Jam (岡本義憲&三村洋一) 専用電話: 03-3746-8760 e-mail: sue@image.ocn.ne.jp

ブログ版 編集長日誌 公開中! <http://blog.goo.ne.jp/jazztoday/>

次号(34号)は「第4月曜日」(07年1月23日)からの店頭配布とさせていただきます!

ハンク・ジョーンズに 会ったんだ!

連載第6回



changing the same

聞き手：JT（本誌編集長）

JT：ハンクさんは優に70年間以上はプロのピアニストとして活躍されているわけですが…。

HJ：「よくよく考えてみれば13歳から人前で弾き出したとしてももう、75年になるよね、アハハハ。でも、僕はあと150年は生きるつもりだし、キミたちだってそれぐらいは生きなきゃダメだよ（笑）。確かに年齢的に考えれば長いキャリアかもしれないけれども、肝心なのは“何年かかったか”ではなくて、その間“自分はどれだけの経験が出来たか”というところにあるわけで。僕自身の場合を考えると本当にあっという間の年月だし、まだまだ学ばなければならぬことが沢山あるよね」

JT：その意味でも「150歳まで」という意気込みなんですな。

HJ：「そう、150歳まで生きる（笑）。その間にいったい自分がどれだけの経験を積めるのか、それが凄く大事だと思うからね」

JT：今年（2006年）だけに限っても1月にソロの『ラウンド・ミッドナイト』を出されたり、夏にはThe Great Jazz TrioとソロのライブDVDを同時発売されたり、ケイコ・リーやロバート・ガンバリーニとの共演盤も出されるなど、じつに精力的なハンクさんですが、ソロ作を吹き込む際に特有の感情はありますか？

HJ：「ソロ・アルバムを録音するに際して“何か伝えたいものがあるのか”といえ、こうは言えるかな。かりに思想家を例にとっても、ある時点ではひとつの考えが非常に時代と合致したものであっても、数年経てばその人の経験すること、あるいは周りの状況によって考えが変わるということはあるし。そういうふうに“変遷してゆく”ということが世の常だよな。音楽的な志向も同様で、それぞれ自分の好き/嫌いとは関係なく、音楽として“コレとコレとコレを組み合わせるとこうなる”という考えも時代なり、自分の経験によって学んでゆく。そうすると伝えられるものが増えていくし、音楽的観点の経験値ももちろん上がってくるので志向も変遷するんだよな」

JT：変わりゆく同じもの（changing the same）みたいな…。

HJ：「だね。それが「どう変わったのか」という部分で、皆さんにお伝えできるものがあるかもしれないということだよな。そういう変化というのは人間、何も後退するために試行錯誤を重ねるわけではないから、より良いものを目指すのは当然だろう。昨日よりもひとつでも良いものを、ひとつでも前へ進めるものを、というのが人間の常なので、僅かな差でもその違いが面白いわけだし。たとえば数年前に私がやったソロ作品と近作を聴き比べて、「変わってないね」と言われるよりはやはり「少し変わったね。あ、ここが新しいね」と思ってもらえれば嬉しいし。そういうふうに人間は成長してゆくべきだと思ってるから」

JT：鈍重なカメラでいいわけですね。ハンクさんみたいな人からそう言われると勇気が沸くな（笑）。

HJ：「それとグループで演奏する時と比べて、ソロというのは本当に集中力が必要なわけ。それをどこまで研ぎ澄ませられるのかというのもソロ・ピアノという領域には問われるので、それは自分にとってもまだまだチャレンジしなければならぬ部分だとは思っているね」



JT：その意味でも88歳は、150歳の折り返し地点を通過した程度に過ぎない？

HJ：「そう、まだ、88歳だし。ピアノも88鍵盤だし（笑）。二十歳の頃の自分をふり返ってみても、今より楽しい気分で生きていたかという今のほうが全然良いし（笑）。もちろん健康には人一倍気を遣っているけど問題は年齢ではなくて、やはり自分が何を経験するかだと思うんだ。ユービー・ブレイク（ラグタイム・ピアノの名手、1883-1984）が100歳を越えたときに言った言葉があってね。『こんなに長生きするんだったら、もっと自分のことをちゃんとかまっておくべきだった』と、もっとちゃんと考えてやればヨカッタって言ったわけ（笑）。僕もそれを見習うつもりだよ」

JT：じゃあ、あと88年、素敵なピアノを聴かせてください。

HJ：「OK（笑）。実際、新聞を読むと長寿の方法が日々研究されていることが分かるよね。僕はこうして元気に笑っているけれども、少し前までは人間がこんなに長生きするなんてあり得ない時代があったわけだから。満更冗談でもなくいずれは皆、300歳まで生きる時代が来るかもしれないよ。要は自分が“歳をとった”と思うと、本当に歳をとっちゃうものなんだよね」

ラウンド・ミッドナイト ハンク・ジョーンズ

「Mr. スタンダード」が贈る、珠玉のソロ・ピアノ第二弾



01. マイ・ロマンス
02. サムワン・トゥ・ウォッチ・オーヴァー・ミー
03. いつか王子様が
04. 町の噂
05. ウィロー・ウィーブ・フォー・ミー
06. オール・ザ・シングス・ユー・アー
07. ラウンド・ミッドナイト
08. 酒とバラの日々 / 09. スピーク・ロウ
10. 嘘は罪 / 11. 二人でお茶を
12. フォー・ユー
13. イン・ア・センチメンタル・ムード

■ パーソネル：ハンク・ジョーンズ (piano)

VRCL-18830 ¥2,835 (税込)
CD & Super Audio CD / Hybrid
2006/1/18 RELEASE

2004年2月4&5日、
東京ソニー・ミュージックスタジオ録音